

津別町第 6 次総合計画 令和 6 年度 進捗評価シート

(令和 2 年度～令和 1 1 年度)

令和 7 年 7 月
津別町

1 教育・子育て「つべつ・人・未来づくり」～人と地域の中で豊かに学びあい未来の人材を育むまち～						
施策 1ー1 子育て支援の充実「子育てしやすく子どもがすくすく育つ 子育て世代に選ばれるまちづくり」						
10年後の目指す姿 (Goal)	主な取り組み (Project)	担当部署	内部評価 挑戦したこと (Challenge) ※定量的な実績を記載する。	挑戦の中で困っていること (Problem)	次に挑戦すること (Next Challenge)	外部評価 挑戦に対する評価、激励、支援、質問 (Assesment, Encourage Support, Question)
◎津別の子どもたちが町外へと巣立ってからも、「津別の子育て環境の良さ」を思い返し、「子育てをする場」として再び津別に戻ってくるまちとなっています。 ◎子育て世代が住みたいと思う環境（働く場・住居・生活環境）が整っており、「子育てする場・暮らしの場」として選ばれるまちとなっています。 ◎町民が子育てのしやすさを実感し、さらには町外にも発信され移住者が増加しています。 ◎小さな子どもから中高校生まで、子ども一人ひとりが気軽に安心して過ごせる居場所があります。	[1-1-1] 子育て情報の充実と「子育てしやすいまち」としての発信強化	保健福祉課	・子育て家庭へのニーズ把握：令和6年度は、子ども子育て支援事業計画策定年度であった。計画策定において、令和5年度に実施したニーズ調査結果を共有する中で、子ども・子育て会議に参画する委員からもニーズの把握を行った。また、日頃子育てに関する相談などを受ける中で、子育てニーズを把握するよう努めている。 ※参考：子ども・子育て支援会議開催回数 3回 ・津別町の子育てサービス・支援制度の情報発信：「妊娠・出産・子育てに関するサービス一覧」の冊子内容を今年度も更新。妊娠時～就学前のお子さんを持つ保護者向けのサービス・支援制度をわかりやすくまとめ、主に母子手帳交付時、赤ちゃん訪問、転入者への案内として活用した。 ・子育て情報の発信：令和2年度から「つべびい」母子手帳・子育て支援アプリを導入。母の健康記録、子の成長記録、予防接種管理などの母子手帳機能の他、地域の子育て情報の発信を行った。 →R7.3月末現在、90件のユーザー登録（前年度比4件増）。地域の子育て情報は、R6年度12件発信。うち、8回乳幼児健診・乳幼児相談会について定期的に配信を行った。また、随時情報としてこども園の入園受付開始、インフルエンザワクチン助成等も発信した。 ・津別町の子育てサービス・支援制度の情報発信：「妊娠・出産・子育てに関するサービス一覧」の冊子内容を今年度も更新。妊娠時～就学前のお子さんを持つ保護者向けのサービス・支援制度をわかりやすくまとめ、主に母子手帳交付時、赤ちゃん訪問、転入者への案内として活用した。 ・子育て情報の発信：令和2年度から「つべびい」母子手帳・子育て支援アプリを導入。母の健康記録、子の成長記録、予防接種管理などの母子手帳機能の他、地域の子育て情報の発信を行った。 →R7.3月末現在、90件のユーザー登録（前年度比4件増）。地域の子育て情報は、R6年度12件発信。うち、8回乳幼児健診・乳幼児相談会について定期的に配信を行った。また、随時情報としてこども園の入園受付開始、インフルエンザワクチン助成等も発信した。	・日ごろの相談から把握したニーズや、児童福祉法などの改正により新たに創設された事業があるが、マンパワー不足などにより実施に至っていないものがある。 ・子育てに関する情報は保健、福祉、教育分野があるが発信が一元化されていないため、子育て中の住民にとって、一部の情報を受取るのみとなっている。	・令和7年度からこども家庭センターを開設予定のため、子育て世帯や関係機関とのやり取りから日ごろの子育てなどにおけるニーズ把握に努める。また、事業実施については、広域での実施なども模索しながら、新たな事業実施に向けた協議を行う。 ・国のこども政策DXにおける子育て支援制度レジストリの中で、子どもの年齢等に応じてプッシュ型で、先回りした情報提供を行う仕組みを整えていく。またその中で、適切な子育てアプリを関係部署と協議を行っていく。	【評価】 津別町は小さなお子さんやママさんの支援はとても充実しているイメージがあります。移住希望者もそこを良いと思ってくれる方が多い気がします。その一方、中高生のことで「部活の他エリアへの送迎」「他エリアの高校に通う子供たちの交通費」などが大変だと言う声をきく機会が増えている気がします。どのくらいの方がそう思われているのか現状の数字などはわかりませんし、何を優先するかは難しい問題だと思いますが、子供のいない私にまで聞こえてくるといことは、結構なことなのでは？と思っています。 【評価】 1ー1 全体 皆さんのお陰で病院環境以外は、すでに子育てしやすい町になっていると思います。 子供は増えることはないと思いますので、ここで育てたいと選んでもらえるよう 【質問】 マンパワー不足の対策はあるのでしょうか？年々この問題は深刻化すると思います 【質問】 子育てしやすい町として町外発信はどのように？子育てしやすい町＝その環境が整った働き場（企業）がある町だと思うので、雇用促進を含めたプロモーションなどはあるんですか？ 【提案】 子育て世代が使いやすいSNS等を積極的に使い情報発信の拡充をしてはどうでしょうか インスタやtiktok等短い動画は観るのに負担が少ないのでハードルが下がるかと思います。 【評価】 図書館が新設されたことにより、幅広い年齢層のコミュニティの場となったので今後さらに活用できたら良いと思います。 【評価】 大変満足しています。近隣の街から比べても津別町は非常に良いと感じます。
	[1-1-2] 子育て世代のニーズにあった支援の充実	保健福祉課	・子ども・子育て支援事業計画に基づく事業の推進と充実：子育て家庭への支援や、支援を必要とする子どもや家庭への取り組みの推進、仕事と子育ての両立を支援する環境整備などの各種事業について、保健福祉課、生涯学習課その他の関係課で役割分担・連携しながら進めている。（各種事業の主な進捗状況は、別項目で掲載。） ・相談支援体制の強化：国が全国の自治体に設置を求めているこども家庭センターを、令和7年度からの開設に向け協議を行った。こども家庭センターは、妊娠期から家庭に関わり、継続して子ども・子育てに関する相談支援を行う機関で、子育て世代のニーズにあった支援の充実を果たすためにも、その役割が期待されるものである。 ・子育て家庭への経済的支援の実施： ○出産子育て応援事業（妊娠時、出産時各5万円支給） 実施率100％ ○妊婦健診に係る交通費助成 実施率100％ ○妊婦健診、産婦健診の費用助成 実施率100％ ○新生児聴覚検査費用助成 実施率100％ ・妊娠期から切れ目のない支援の充実：（主に1歳まで） ○妊娠届時の個別相談 実施率100％ ○妊娠後期の個別相談 実施率 89％ ○新生児訪問・乳児全戸訪問 実施率100％ ○3～4か月児健診 受診率100％ ○6か月乳児相談会 参加率80％ ○9～10か月児健診 受診率100％ ○1歳乳児相談会 参加率90％ ○その他、産後ケア事業、育児学級、離乳食教室の実施	・日ごろの相談から把握したニーズや、児童福祉法などの改正により新たに創設された事業があるが、マンパワー不足などにより実施に至っていないものがある（1-1-1再掲）。 ・出生数減にともない、子育て仲間を作りたいというニーズを満たすことが難しくなっている。対象者は少なくなっているがニーズは多様化しており、常にブラッシュアップすることが必要になっている。 集団の健康教育、保健指導は少人数のため開催方法を検討する必要が出てきている。	令和7年度からこども家庭センターを開設予定のため、子育て世帯や関係機関とのやり取りから日ごろの子育てなどにおけるニーズ把握に努める。また、事業実施については、広域での実施なども模索しながら、新たな事業実施に向けた協議を行う（1-1-1再掲）。 ・少ない対象者であっても、母子保健として必要なボビュレーションアプローチを継続できる方法を検討していく。	【評価】 子育ての支援は充実していると思ってます。ただもっと津別在住の子育てパパママの声を外に発信してPRしてもらい印象度を上げていいと思います！ 【質問】 マンパワー不足の対策はあるのでしょうか？年々この問題は深刻化すると思います 【評価】 サツドラができて買い物環境は良くなっていると思います。 世帯用の住宅が少ない、あっても古いという意見を見ました。住環境が整わないと転出する動機になるので住宅取得支援制度のアピール等改善が必要かと思われます。 【評価】 子育て支援金等実績があるので、引き続き継続があったら助かると思います。 【評価】 手厚いサポートありがとうございます。

	【1-1-3】すべての子どもの安全・安心な居場所づくりの推進	生涯学習課	・児童館事業・放課後児童クラブの充実 児童クラブと児童館（放課後子ども教室）が連携して、児童の安心安全な居場所の確保ができた。また、遊びの充実も取り戻した。（1日平日平均40名程度利用/全児童154名）→児童クラブ48名、準児童クラブ28名、児童館一般利用登録28名、22事業を展開（アソビバ事業との連携も含む） ・アソビバ！つべつの充実 今年度も低学年向け、高学年向け宿泊体験事業を復活することができ、子どもたちの学びや体験がより深まる場を提供することができた。また、農業・林業・歴史・運動教室など津別の自然や環境を活かした貴重な体験が提供できた。→年間20事業実施、登録者58名、延参加人数404名	・児童館利用者が多くなったことや国から示される運営指針に基づき、より安全な見守り体制が必要だが、依然として指導員不足が生じている。 ・児童館に関しては、施設の老朽化が著しい。	・児童館運営については、関係機関と協議し、児童館のあり方を検討する。 ・量より質の向上、価値観向上 ・高校生ボランティアひまわりを中心とした青年層の活動拠点となる居場所（サードプレイス）づくり	【質問】 青年層の活動拠点となる居場所づくりについてが気になります。どのようなイメージを持たれているのでしょうか？子供たちも欲しているのでしょうか？何かご協力できることがあればと思います。 【質問】 図書館やさんさん館は津別の住人の居場所として利用されていると思いますが、子供たちの安全な居場所として取り組まれていることはありますでしょうか。居場所づくりは多くて困ることはないと思います。 【評価】 児童館の老朽化は課題（使用率が高いなら） 【評価】 手厚いサポートをしていただき、心から感謝しています。
	【1-1-4】若い世代が子育てできる《住む・働く・生活》の環境づくりの推進	建設課（住宅、道路、インフラ）	【住宅】子育て世帯の住宅取得支援のために、ふるさと定住促進奨励金を補助した。新築分 7件1,430万円、中古住宅を購入又は改修した世帯への補助 中古6件180万円、改修2件100万円。		【住宅】住宅取得支援の補助を継続。	【提案】 住むに関して、やはり最初から物件を購入するのはハードルが高い気がします。（もちろん購入される方もいらっしゃいます）少なくとも数年間は賃貸で様子を見たいと思うのはそんなに稀有なことではない気がします。若い世代は収入も重要だと思いますし、現に収入面で空いている町営住宅入居が難しい方もまだまだいらっしゃいます。民間賃貸をつくるということもされていて、とても良いと思いますし、今空いている町営住宅を特賃扱いにすることもされていて良いと思います。が、もともとの特賃が空いていればそちらを優先することだったと思います（違っていたらすみません）空いているなら、それをこだわる必要はないのかな？とも思います。なぜならば、アパートタイプではなく戸建てタイプを希望される方、少しでも新しい物件を希望される方が多いからです。若い世帯の方が津別に住みやすくすること、現状のあるものの仕組みをかえるだけで解決できることがあるなら、考えてもいいのでは？と思います。 【提案】 小規模事業者若者雇用促進助成金事業について、当社では社員数の2/3が町外から通勤しており、その内本助成金の対象となる若者も複数名通勤している。住む場所がない等の理由により町外に住むことを選択されているため要件から外れるものの、小規模事業者が積極的に人材投資し、若者の雇用を促進しているという点で本助成金の適用拡大を願いたい。 【評価】 働くについて、ワークINツベツのホームページの更新が少なくないように見えます。内容は素晴らしいので情報の鮮度維持が必要かと思います。 【評価】 住宅取得だけでなく町営住宅、特賃のあり方も課題（入居資格等） 【評価】 図書館の新設、またサツドラがオープンしたことにより、乳児用品が求めやすい環境になったことは本当に良かったと思います。
		住民企画課（買い物環境）	市街地に、「大通地区コミュニティ施設（愛称 ウッドリーム）」に続き、ドラッグストアを含む「幸町地区コミュニティ施設」が完成。11月に供用開始し、買い物環境の充実を図った。	・人が集まり賑わいや活気をもたらす仕掛け作りを民間事業者と連携して進める必要がある。	・町の活性化に資する取組みを行うため、サツドラとの連携協定を締結する。	
		総務課（公共施設）	・役場庁舎正面駐車場外構工事が完了、駐車場の一部には屋根付きの「思いやり駐車場」を設置し来庁しやすいよう配慮している。 敷地内の緑地帯にベンチを設置し、町民の憩いの場としての機能を持たせている。 緑地帯中央を通る歩行者通路は、ウッドリームと幸町地区コミュニティ施設と役場庁舎との三施設を結ぶ誘導路として、各施設間のアクセスの利便性を高める役割が期待されている。 ・健康福祉センターが開設され、妊娠期から乳幼児期の相談会や教室、1歳半・3歳児健診を定期的の実施し、総合的な子育て支援の一助となることを目指している。	・幸町地区コミュニティ施設が完成し三施設が揃った。 ・健診ホールが手狭であるが、中ホール等の活用など工夫して実施していく。	・花壇プランターを設置し、より町民の憩いの場として親しまれるよう、彩りを添える。 ・引き続き、健康福祉センターを拠点として、子育てに関する事業を実施、充実していく。	
		産業振興課（働く場創出）	・UIJ新規就業支援事業の継続実施と町内企業への法人登録の推進。 ・小規模事業者若者雇用促進助成金事業の継続実施。R4から対象若年者の要件を一部緩和（正規雇用された日の属する月に町内に住所を有すこと者→正規雇用された日から1年以内において町内に住所を有する者） →R6新規実績：2事業者2名	・量的に雇用機会はあるものの、求職者とのミスマッチが生じている。	・UIJ新規就業支援事業の継続実施。	
	【1-1-5】保育サービスの充実	保健福祉課	・現在、町内で就学前児童を受け入れる事業所は認定こども園1か所だが、多様な保育ニーズに対応できるよう、令和6年度においても延長保育、一時保育事業などの事業を継続実施した。（令和6年度実績） ・延長保育利用児童26名（延べ3,300名）、一時保育利用児童7名（延べ62名） ・令和元年度10月から始まった「教育・保育の無償化」制度の制定に伴い、子育てのための施設等利用給付事業（一時預かり保育の無償化）を引き続き実施した。（令和6年度実績） ・利用児童7名（述べ63名） ・令和6年度末時点で、待機児童はいない。 ・人材確保を目的として、学生を対象に令和元年度に実施した「まるっと！ふくし体験（介護・保育）inつべつ」は、新型コロナが5類に移行したものの、関係事業所は依然として影響を受けており、開催が困難だった。	・保育サービスが必要な方に情報が知られていないことがある。 ・認定こども園の職員配置に余裕がないため、年度途中の入園希望について、希望者の数や年齢によって希望に添えないことがある。	・引き続き、出生相談時、子育て世帯の転入時など、子育てに関する制度などの周知を行い、必要な方に適切に情報が届くようにする。 ・認定こども園と連携し、途中入園を希望する家庭の情報をできるだけ早期に共有し、入園希望に添えるよう努める。	【評価】 保険福祉課のみなさんは、移住するかまだ未確定段階からの相談にも快くのつていただき、大変助かっていました。本当にありがとうございました。 【評価】 18歳まで医療費がかからないのはとても良いことだと思います。

1 教育・子育て「つべつ・人・未来づくり」～人と地域の中で豊かに学びあい未来の人材を育むまち～						
施策 1ー2 学校教育の推進「夢や希望を持って未来を切り拓く子どもを育む『津別ならではの』学校教育の推進」						
10年後の目指す姿 (Goal)	主な取り組み (Project)	担当部署	内部評価 挑戦したこと (Challenge) ※定量的な実績を記載する。	挑戦の中で困っていること (Problem)	次に挑戦すること (Next Challenge)	外部評価 挑戦に対する評価、激励、支援、質問 (Assesment, Encourage Support, Question)
◦健やかで豊かな人間性と多様性・国際性を育む教育が実践されています。 ◦子ども一人ひとりに応じた、未来を切り拓く力と将来に向けた選択肢を与えられる教育が実践されています。 ◦小中一貫教育化による“津別ならではの”体系的で特色ある授業が実践されています。 ◦先進的で新しい学びの教育を受けられるまちとなっています。 ◦地域全体で子どもを育てるまちとなり、地域の魅力を発信できる人材、まちづくりに参画する人材が育っています。 ◦地元食材を使った安全で美味しい学校給食が継続的に提供されています。	【1-2-1】 特色のある学校づくり「食育・木育」と「交流」のさらなる充実	生涯学習課	【食育】給食食材の購入に関しては、可能な限り地産地消に取り組んでおり、地元農産物の収穫期には、子どもたちに地元食材への関心を深めてもらうとともに郷土を愛する心を育むことを目的として、すべての食材に津別産を使用したオール津別給食を実施した。 【木育】 ・「木のまちつべつ」で生まれ育った子どもたちに、津別の基幹産業である林業等への理解を深めてもらうことと、将来を担う人材になってもらうべく、小学校3年生、5年生、中学1年生の授業にて講師を招き、森で木に触れる体験や木工品製作等の授業を実施。 【交流】 ・異文化に触れ、国際的な感覚と視野を身に着けることにより、人間性豊かな人材への成長を期待し、友好都市である台湾二水郷の二水國民中学校に津別中学生を8名派遣。あわせて、今後の継続的な国際交流を図るため一年おきに訪問・来訪を行う。	【食育】地元産の農産物使用に関しては、収穫されたままの状態で納められるため、下処理に非常に時間を要することが難点となっている。 【木育】 ・講師助手である町内の協力者が高齢のため、後任の選定について検討を行っている。 【交流】 ・台湾二水郷からの来訪が経済的理由で断念されている。	【食育】北海道教育推進計画で給食における地場産物の使用量を50%との目標があるため、達成に向けて挑戦する。（津別町は48.8%） 【木育】 ・学校運営協議会を活用し、担い手発掘を進め、事業を継続させる。 【交流】 ・台湾二水郷との国際交流は継続していくが、継続するための財源確保を進める。	【質問】 給食センターが新築され、今後提供される給食の内容に変化はありますか。これまで提供できなかったものができるようになる等あるでしょうか。 【評価】 交流に関して物価高なのでやり方も考えるべき 【評価】 非常に良い取り組みだと思ってます。ありがとうございます。 【評価】 また津別の子供たちがこんな企業にいとわかれば、何か情報交換なども出来るかもしれないと感じました。 【評価】 木育では外部から講師(木育マイスター)を招聘しているが、町内や近隣市町村にいるマイスターが活用されていない。町内(ノノの森ネイチャーセンター)で独自の木育活動を行っているが、小学校3年・5年の授業(社会教育主導の授業)とは連携が取れておらず、町内の地域資源(自然・産業・人材)を活用できていない。 【評価】 食育オール津別給食は是非続けて欲しい。 【評価】 こどもの頃から自分の町のことを体験しながら知ることができる、この取り組み 【評価】 1ー2 全体 人口が2千になった時、一学年の子供は20人位でしょうか？ 教育は手厚くなると思いますし、いろんなことをチャレンジしていると感じます。「交流」について昔から思うのですが、20人というクラスの人間関係が中学まで続いていきますし、同じ人間関係だと刺激もなく、人の流動性がないと一度ドロップアウトするとなかなか戻れない事もあると思います。 近年は部活が合同なので、新たな人間関係も創出している事もあると聞いてます。こういった「交流」の機会に補助をつけて創出してあげることが、田舎の教育にとっては何より大切でないかと感じます。 近年は社会構造で同じ課題をもっているため下記のようなプロジェクトが生まれているようです。問題もあると思いますが、人間関係の流動性をどこかで担保してあげたいと思います。 https://business.aschool.co.jp/projects/projectbu/ あとは田舎にいとと芸術に出会えないのが損をしているといわれることもあります。 都会なら美術館や音楽などあらゆる芸術にあふれています。 ですから日本フィルという一流な音楽を聴く機会があるというのは田舎にとって素晴らしい企画だと思いますし、あらゆる分野で色んな機会を与えてもらえるとう有難いかなと思います。 もう一つは中学生の進路が気になります。よく高校だと大学何名合格とかありますが、津別中学生の大学進路情報(結構良いのではと思う)だったり、もっといえばどんな仕事してるかなどもわかれば、親が津別に住むことを選ぶという選択もあるかもしれないと思いました。 また津別の子供たちがこんな企業にいとわかれば、何か情報交換なども出来るかもしれないと感じました。

	【1-2-2】地域学（ふるさと教育）の充実《全学齢一貫した取組の実践》	生涯学習課	・町教育委員会で作成した「社会科副読本」を活用し、小学校3～4年生の課程で、津別の歴史や産業を知る授業の実施。 ・津別峠やノンノの森等の津別の自然を体験する授業の実施。 ・町の産業を直接見て知るため、町内の工場等の見学授業の実施。 ・自分たちの住む町を上空から眺めることにより、ふるさと「つべつ」を見つめ直し、まちの魅力を再発見することと、空港内の職場体験、飛行体験という通常体験することができない経験を子どもたちに増やしてあげることを目的に ふるさと教育チャーター事業を津別中学校2年生を対象に実施。		・学校運営協議会を活用し、担い手発掘を進め、事業を継続させる。 ・ふるさと教育の充実のため、取組内容の改善を検討。	【評価】 素晴らしい取り組みだと思います 【評価】 非常に良い取り組みだと思います。
	【1-2-3】コミュニティ・スクールの実践と体験型教育の充実	生涯学習課	・学校運営協議会の地域コーディネーターが、小・中学校の校外活動を行う上での相手先との日程調整などの窓口を担うことで教員負担を減らし、円滑に進めることができる。 ・体験型教育としては、ふるさと教育と通じるが、津別峠やノンノの森等の津別の自然を体験する授業やチャーター事業を実施。		・学校から学校運営の課題を出してもらいながら、学校運営協議会委員と共に開かれた学校を目指していく。	【質問】 活動内容について、PTA活動との違いなどが知識不足で分かりません。 【評価】 素晴らしい取り組みだと思います 【評価】 津別町は自然豊かな土地柄もあり、クリン草や木芸館等力を入れていって欲しいと思います。
	【1-2-4】先進的なICT、教育手法等の導入推進及び学校現場支援	生涯学習課	・児童生徒一人一台端末活用のため、学習ソフト・アプリを継続導入し、津別中学校には授業中のグループワークで使用する授業支援ソフトを導入するなど、学校現場支援を継続している。	・端末を活用した先進的な教育手法の現場支援方法の導入	・子どもたちが地域格差のない教育を受けられる環境を整える。	【評価】 時代にあって良い 【評価・提案】 徐々に改善されてきたと思いますが、学年に応じてiPadの使用時間や閲覧制限（年齢にふさわしくないものを表示させない。）などを厳しく徹底していただきたいと思います。 iPadなどのデバイスを使用するのは、当然できるようにならないとはいけないと思いますが、それと同時にウェブリテラシーも育てていただきたいと思います。（詐欺サイトの怖さ、情報流出の怖さなど）
	【1-2-5】多様性を認め合うための体制整備（特別支援教育のさらなる充実と理解度向上）	生涯学習課	・特別支援教育を充実させるため、臨時教職員を中学校に1名、学習補助員を小学校7名、中学校3名の計10名を配置した。	・特別な支援が必要な子どもに対して、適切な関わり方や必要な支援を行うために、特別支援教育担当教員と連携する学習補助員の人員確保 ・多様性を認め合うために必要な知識、現代の状況について町民に周知していく手段	・継続的な学習補助員の人員確保 ・教員、学習補助員の能力向上や町民への周知につなげるため講師を招いた講演会・事例検討会の実施を目指す。	【質問】 講演会では興味のある特定の人のみ、町民全体への周知はどのように？
	【1-2-6】図書に親しみ、読書好きを増やし、好奇心を刺激する教育の実践	生涯学習課	・えほんハウスやこども遊び場等の本にふれあうことのできる場で、親子で読書に親しむ姿が見られた。また新たな事業を実施したため、利用・来館の促進にもなったと感じる。 →ブックスタート事業（12名）、絵本ふれあい事業（77名）、読書チャレンジコンクール（小中学生57名）等。	・グループ学習などで図書館を利用する10代が増えたのは良かった。今後は10代への読書推進への取り組みを考えた。	・学校では児童・生徒一人一人にタブレット端末が貸与されるようになっているため、それらを活用した時代に沿ったサービスを提供したい。	【質問・提案】 図書館の小中高授業内利用等はあるんですか？もっと学校行事（たとえば、一日中読書&感想文作成）など利用しては？ 【提案】 図書館への入り口として雑誌や漫画を充実させ、敷居を下げて幅広く活用してもらうのはどうでしょうか。私は利用させていただいてますが、私の周りにはどこにあるのかも知らない人が多いです。 【評価】 図書館が新しくなり、本を借りる頻度が明らかに増えました！スタンプなどアイデアも素晴らしい取り組みしてると思います。 【評価】 図書館の新設は非常に良いと思いました。特に乳幼児に読み聞かせる絵本が借りやすい環境はかなり良い点だと思います。

1 教育・子育て「つべつ・人・未来づくり」～人と地域の中で豊かに学びあい未来の人材を育むまち～						
施策 1ー3 生涯学習・スポーツの推進「いきいきと学び健康的で心豊かな人生を送るための生涯学習・スポーツの推進」						
10年後の目指す姿 (Goal)	主な取り組み (Project)	担当部署	内部評価 挑戦したこと (Challenge) ※定量的な実績を記載する。	挑戦の中で困っていること (Problem)	次に挑戦すること (Next Challenge)	外部評価 挑戦に対する評価、激励、支援、質問 (Assesment, Encourage Support, Question)
◎誰もが、生涯にわたりにいきいきと学び、活動しながら、暮らしていける環境が整っています。 ◎年代に応じた多様なスポーツ機会が確保され、年間を通じたスポーツ、文化事業(夢を与える事業)が展開されています。 ◎町民ニーズに応じた多彩な生涯学習、社会教育メニューが充実しています。また、町外からの来訪者に対しても提供され、交流人口・関係人口の拡大、外貨獲得、移住促進に寄与しています。 ◎世代間交流、異年齢交流が活発に行われています。 ◎若者の拠点(たまり場、しゃべり場)が確保されています。 ◎使いやすく行きやすい図書館があり、誰もが勉学・情報収集に関心を持ち読書を楽しみ、本に親しむまちとなっています。 ◎家庭教育を通じた「親学び」、「子育て学び」による親子成長機会が確保されています。	[1-3-1] 生涯スポーツと健康づくりの推進	生涯学習課	・オリンピック事業では、プロのアスリートから学べる貴重な機会であり、参加者の技術向上や、多種目・多様なスポーツに触れる機会を創出することができた。 ・「総合型クラブかるっちゃつべつ」事業と時期を調整し、切れ目のない運動の機会を継続して提供することができ、健康維持につながった。 →オリンピック事業、ゴールドスポーツ教室全24回実施、健康づくり教室全24回、冬季スポーツイベント実施など	・20代、30代、40代の運動の機会や参加が少ない。特に男性。	・若い世代の運動機会の創出や、トレーニングルームを活用した教室の実施 ・総合型クラブの自立に向け、伴走支援	【提案・評価】 1ー3 全体 図書館やトレーニングジム、または企画など充実していると思います。特化した企画とかなら来る人も増えるかも？ ゴルフ パークゴルフ 川柳 など指導者を呼んだり。図書館の作家さんくるのは行けなかったけど良かったと思いました。 【提案・評価】 オリンピック事業は素晴らしい取り組みと思います。継続してほしいです。課題となっている20～40代男性の運動の機会・参加については仕事が忙しい世代なので、1人でコツコツできる筋トレ等にスポットを当てて有名ボディビルダーによる講習会などはどうでしょうか。 【評価】 プロがくるのは素晴らしい 【要望】 トレーニングセンターの年間パスを購入したいけども、中央公民館でないと交付していただけないとのことで、なかなか年間パスを取得できません。夜遅くにしかトレーニングセンターに行けませんので、中央公民館が閉まっている時間になります。改善していただけると嬉しいです。
	[1-3-2] ニーズに応じた多様な社会教育事業の推進	生涯学習課	・町民からの要望により社会教育講座を実施するなど、ニーズにこたえた講座を展開することができた。また、講師から学び、参加者同士で学び合う機会を提供できた。 ・高齢者大学(学生45名、16講座、延べ参加者数599名)※公開講座2回、社会教育講座(坂東元氏)38名、アソビバ！チミケップ湖カヌー体験親子5組、オリンピック事業(折茂武彦氏)57名、アソビバ！ツリーイング親子1組、アソビバ！かわ塾親子7組など	・施設や機材が古く、時代にあった新しい取り組みがあまり展開できない。(公演など)	・町民のニーズに沿った公演等事業を展開。 ・施設整備(LED化、機材の更新、ネット環境の充実、デジタル機器の更新など) ・システムやアプリなどを活用し、事業参加のハードルを下げる。(申込やチケット、座席指定など)	【評価】 良いと思う
	[1-3-3] 図書に親しみ、読書好きを増やし、好奇心を刺激する生涯教育の実践	生涯学習課	・学校巡回司書業務等で学校とも連携を取りながら読書推進をすすめることができた。 ・各世代別に合った図書館利用の仕方がなされており、「人が集まる場」としての役割は、はたすことができた。 →ブックスタート事業(12名)、図書館まつり(346名)、映画上映会(全6回・74名)等。 図書館だより毎月発行、小中学校巡回毎週各2回	・図書館まつりやおはなし会等、ボランティアの協力が不可欠だが、高齢化やボランティアが固定化しているため、新たな人員の確保。	・基本理念である「自分たちの図書館」と感じられるような、事業を展開できるようにしていく。	
	[1-3-4] 若者の拠点整備(たまり場、しゃべり場)	生涯学習課	・「津別町青年活動プロジェクトand」の活動は、メンバー19名で毎月定例会を実施し、主催イベントとして、出張サンタ、出張オニ、内部研修大人の社会科見学、町民向けモルック大会など実施してきた。特に隣町の青年団体との連携が顕著で、お互いのイベントに参加しあえる関係性となり、町内外での活動が活発化してきている。	・団体の活動が増えメンバーの増員もあったが、定例会に参加するメンバーが固定化し、全体での討論ができていない。集う場の創出の検討まで至っていない。	・町内外における青年同士の交流強化。 ・高校生ボランティアひまわりを含む青年層の活動拠点となる居場所(サードプレイス)づくりの検討。	【評価】 これから若者をどう生かして、行くのが大事かと思います。出会いの場をたくさん作り、長く住んでもらえるように意見を取り入れて行くべきかなと。 【評価】 これからも頑張ってほしい

1 教育・子育て「つべつ・人・未来づくり」～人と地域の中で豊かに学びあい未来の人材を育むまち～

施策 1－4 まちづくり教育の推進「まちづくり・地域づくりに参画する地域人材を育成する教育の推進」

10年後の目指す姿 (Goal)	主な取り組み (Project)	担当部署	内部評価 挑戦したこと (Challenge) ※定量的な実績を記載する。	挑戦の中で困っていること (Problem)	次に挑戦すること (Next Challenge)	外部評価 挑戦に対する評価、激励、支援、質問 (Assesment, Encourage Support, Question)
●まちづくり活動を活発に行う人(活動人口)の比率が高まり、まちづくりに自主的に楽しんで参加する人が増えています。横の連携が強化されています。 ●異世代間の交流が活発に行われています。 ●まちづくりを応援、協力、連携を促進する気運がより醸成されています。 ●まちづくり活動を担うメンバーの新陳代謝が進んでいます。	【1-4-1】「いいね」プロジェクト・「笑顔」プロジェクト・「応援し合う」プロジェクト	生涯学習課	・津別小学校では、学校教育目標の中で、めざす子どもを「心身ともにたくましくおもしろいのある子ども」「自他のよさを大切にする子ども」とし、自分のよさに気づくこと、他者のよさに気づくことを日常を振り返る生活指導を通して気づかせ、他者との関わりの始まりである明るい挨拶や返事ができるよう指導に取り組んだ。 ・津別中学校では、学校教育目標の中で、求める生徒像を「他者を認め、思いやりを持って行動できる生徒」とし、自分の考え、思いを言葉で伝えられるように授業中のグループワークや他者とのコミュニケーションを図る機会を増やした。		・学校内だけではなく、子どもたちと地域の関わりによる取り組みを進めていく。	【質問・評価】 「学校内だけではなく、こどもたちと地域の関わりによる取り組みをすすめていく」とのことですが、どのようなことを考えられているのでしょうか？ 動画投稿が増えると良いと思います。頑張ってください。 【評価】 タウンニュースつべつの取り組み、本当に最高です。採用の時、また町外の人たちに紹介するときに利用させていただいています。本当に良いです。
		住民企画課	・広報番組「タウンニュースつべつ」を通じて、まちづくりの活動を発信することで、応援する風土、津別を誇れる風土を醸成している。 →計12回放送、YouTube視聴回数24,010回(令和6年度) →計12回放送、YouTube視聴回数19,480回(令和5年度)		各種SNSなどを活用しショート動画にも取り組んでいく	
	【1-4-2】多世代交流、異業種間交流の促進 ●「ウエルカムつべつ」の土壌が醸成され、多くの人々が来町し、出会いが繰り返される町となっています(関係人口増加)。	住民企画課	・道東エリアリノベーションプロジェクトのパイロット事業として立ち上げた起業支援型コワーキングスペース、地域融合型ゲストハウスやまちなか再生事業のひとつとして整備された、大通地区コミュニティ施設において、多世代交流、異業種交流が図られた。 →地域融合型ゲストハウス 延べ宿泊者数553名、多世代・異業種交流イベント48回(令和6年度) →大通地区コミュニティ施設 施設利用者数161,356人、多世代・異業種交流イベント11回(令和6年度)	・大通地区コミュニティ施設の整備に伴い誰でもイベントの開催が行えるようになったものの、開催イベントが公的イベントに偏っている。	・公的イベントのみならず、多くのイベントが開催されるよう施設利用の周知等を行い、交流の促進を図っていく。	【提案・評価】 ひとづくり まちづくり 補助金を単発でも可能にしてハードルを低くすれば、これをやってみたいとか思う人も出てくるのではないかと思います。 継続事業となるとハードルが高いです。 例えば サバイバルゲームイベントをつべつでやってみたい。 という企画に補助をつけるなど 津別が活性するようなもので、チャレンジしたい人が手をあげやすい補助金になればと思います。プロジェクトがあればその中で多世代交流や異業種交流が生まれると思います。 【評価】 町内には異業種交流は民間内でたくさんあるので、その中での声をどう結果に結びつけるのかが大事かと 【評価】 農業、林業、工業、行政とありますが、既存の活動もあるので、それを基に強化して欲しいと思います。
		住民企画課	・広報番組「タウンニュースつべつ」を通じて、様々なまちづくりの活動にスポットライトを当てることで、まちづくり活動参画へのモチベーションを上げ、地域づくりへの参画人材を拡大を図った。 →計12回放送、YouTube視聴回数24,010回(令和6年度) →計12回放送、YouTube視聴回数19,480回(令和5年度) →住民満足度調査「行政の情報発信等」の「満足」、「おおむね満足」の割合71.5%(令和5年度) ・人づくり・まちづくり活動支援事業を通じた自主的なまちづくり活動の推進を行った。 →事業採択数3件、採択団体所属人数 計85名	・特にまちづくりに参画する若者の必要性が増しているため、連携を図る必要がある。	・まちづくりに参画し頑張っている人材や団体の成果を媒体を使って、町民に広く発信することで人材の拡大を図る。	
	【1-4-4】住民提案型のまちづくり方策・条例等の検討	住民企画課	・まちづくり基本条例を制定に向け、策定委員会を実施した。 →策定委員会7回実施。	・条例内容の議論をするためにはある程度の知識を委員および職員は議論前に持っておかなければならないが時間が掛かってしまう。	・委員とともに津別町らしい条例となるよう将来の津別町を見据えた議論を行っていく。	
	【1-4-5】「津別町まちおこし大学 ver.2.0」の実施	住民企画課	・北海道大学公共政策大学院公認課外活動団体HALCCと津別の地域人材によって組織したHALCC+の活動により地域情報誌を作成中。作成に係る取材活動を町民や町内事業所に対し行った。 →地域情報誌 取材5件(令和6年度)	・現在は学生団体HALCC主導であり、高大連携事業等により地域情報誌作成の時間が作れていない。	・津別に在住する地域人材の協力を仰げる体制づくりを行い、完成を目指す。	【評価】 何か成果発表会などが町民にわかるような取り組みがあると嬉しいです。自分だけが知らなかったらすいません。

2 保健・医療・福祉「支えあい、安心して住み続けられる地域づくり」～誰もが、いつまでも、いきいきと、安心して住み続けられるまち～

施策 2－1 保健・医療の充実「安心した生活を支える地域医療の充実と健康で暮らせる環境づくり」

10年後の目指す姿 (Goal)	主な取り組み (Project)	担当部署	内部評価 そのために挑戦したこと (Challenge) ※定量的な実績を記載する。	挑戦の中で困っていること (Problem)	次に挑戦すること (Next Challenge)	外部評価 挑戦に対する評価、激励、支援 (Assesment, Encouage, Support)
◎津別病院が存続し地域医療が維持されており、誰もが必要な時に必要な医療を受けることができます。 ◎「地域包括ケアシステム」の向上・推進により、医療・福祉・介護・行政(教育)に関わる福祉サービスが一体的に受けることができるようになっています。 ◎“病気になっても”、“介護が必要になっても”、住み慣れた地域で安心してその人らしく暮らし、最期を迎えたいという希望が叶えられるまちとなっています。 ◎健康寿命延伸に向けて町民一人ひとりが自ら健康づくりに取り組んでいきます。	[2-1-1] 津別病院を中心とする地域医療体制の維持	保健福祉課	・地域医療の中核拠点として、町民にとって不可欠な病院でありとして、地域医療体制の維持・改築に向けた協議を進めるため会社・病院の意思・希望・方針を示していただくため令和4年5月に要望書を提出し、令和6年3月に担当間で中間協議を実施した。 ・地域医療体制維持のため、町内唯一の医療機関である津別病院に継続的に助成を行った(2億4千万円)。また、6年度は医療機器の老朽化による入れ替えに助成を行った。(3千4百万)	・建物、設備の老朽化の進行が著しく、建替えへ向けた、将来的な医療体制の構想づくりが急がれる中、総合計画に盛り込まれた地域医療の在り方を基に、会社・病院の希望・方針を示していただくため町から要望書を提出したが、その内容についての具体的な回答がいただけていない状況であり、現状では協議を継続し地域医療の在り方を協議しているところであるが物価や人件費の高騰や診療報酬の改定により生じている赤字など新たな問題も協議の進行に影響を与え協議がかみ合わずスムーズに進まない状況である。 ・企業立病院であるため、将来的な医療機関としての経営・運営方針も会社の経営に大きく左右される。	・令和4年末に社長と町長で面談し、双方出席の元、できるだけ早期の協議を行うことで合意しているので、早急に協議を開始できる準備を整える予定。	【質問】 現在、処方箋対応している所が辞めた後、どうするんですか？ 【評価】 2－1 全体 病床は難しいとも感じますが、あったら有難いです。 診療所でも土曜日に整形の先生が来られているように、ここに行きたいという仕組みができればよいなと思います。また昔の町医者のような形で、難しい病気は紹介状といったことでも良いかもしれません。 オンライン診療も離島だけでなく近い将来出てくるでしょうし、大きい病院と連携して診断、搬送する仕組みに力をいれる時代が来ているのかもしれませんが。 追伸 在宅(看取り)や介護の連携はとて素晴らしいです。地域に誇れると思います。 【評価】 病院の存続は町の重要な課題なので情報発信は必要かと思います。 【評価】 病院が無いのも困ると思う 【評価】 医療については、超高齢化自治体のモデル体型になり得る自治体だと思いますので、設備の充実をはかり、利用度を上げる方法の模索を進めて行くべきだと思います
	[2-1-2] 地域包括ケアシステムのさらなる向上・推進	保健福祉課	・子育て家庭への経済的支援の実施： ○出産子育て応援事業(妊娠時、出産時各5万円支給) 実施率100% ○妊婦健診に係る交通費助成 実施率100% ○妊婦健診、産婦健診の費用助成 実施率100% ○新生児聴覚検査費用助成 実施率100% ・妊娠期から切れ目のない支援の充実：(主に1歳まで) ○妊娠届時の個別相談 実施率100% ○妊娠後期の個別相談 実施率 89% ○新生児訪問・乳児全戸訪問 実施率100% ○3～4か月児健診 受診率 ○6か月乳児相談会 参加率 ○9～10か月児健診 受診率 ○1歳乳児相談会 参加率 ○その他、産後ケア事業、育児学級、離乳食教室の実施 ・高齢者が可能な限り住み慣れた地域で暮らし続けることを目指し、医療・介護の関係者や地域住民が連携しながら対応を協議する会議や研修会等を行った。(令和6年度実績) 津別町在宅医療・介護連携推進会議：2回、津別町 医療・介護・福祉専門職のための学習会：1回、介護サービス事業所連絡会議：12回、「多機関で個別に高齢者を支え、ケアマネジメントの質向上を目的とした地域ケア会議：6回/地域ケア地域課題検討会議：1回/自立支援型地域ケア会議4回、介護予防・生活生活支援体制整備事業協議会：1回	・支え手となる専門職の確保と地域住民の高齢化によるマンパワー不足の懸念が継続して見られている。 ・高齢者本人とそれを支える支援家族にも多くの課題がある 複合ケースが増えてきている。	・若い世代も関心が持てて、現状の取り組み(LINEアプリを活用したSOSネットワークの登録推進、認知症高齢者を支える体制づくり『チームオレンジ』の活動)を知ってもらえるような研修会等について検討・継続する。	

	【2-1-3】介護予防、重症化予防、リハビリ等の予防に向けた取組のさらなる重点化	保健福祉課	・介護保険制度による各種介護予防事業を計画し、社協や町内団体と連携しながら実施した。(令和6年度実績) →健康教育:5回/参加103人、いきいき百歳体操開催支援:6団体、ふれあいサロン:14団体(運動サロン含む)、高齢者運動教室(旧転倒予防教室):24回/参加延216人、通所型介護予防(ミズナラ倶楽部):140回/参加延588人、脳活サロン(モデル事業):6回/参加延31人 ※一部事業は津別社協、かるっちゃつべつへ委託し実施。 ・リハビリテーション専門職の派遣ならびに相談指導(令和6年度実績) 津別病院のリハビリ専門職が同行し、家庭訪問並びに介護予防を目的に集う場所で個人相談や集団指導を行った。また、住宅改修を予定している高齢者宅で、身体状況に合わせた助言等を行った その際は対象者に同伴するスタッフもリハビリ専門職の指導を聴く機会となり、介護の質向上に繋がる結果となった。 →事業実施:年間24回 →家庭訪問:7回、家庭訪問以外の個人相談等:6回、ミズナラ倶楽部3回、百歳体操等団体6回、ふれあいサロン等2回	・集団での活動(サロンや体操会等)を好まない男性高齢者の、閉じこもりやフレイル移行が課題。 ・上記も含め、数年間に渡る感染症対応(外出を控えたり活動の自粛)でフレイル(心身虚弱)状態が進み、各団体とも参加者減になっている。 ・一方、町内在住の「団塊の世代」が75歳を超えてきていることから、介護予防の意識づけや地区活動継続への支援は重要と考える。 ・現状の参加者減で開催のモチベーションを落とさないよう、積極的な後方支援が必要となっている。	・リハビリテーション専門職とも協力しながら、高齢者自身が主体的に取り組めるような動機付けを継続する。 ・集団をこのまない男性高齢者向けの介護予防活動について、新規事業を創出。 ・併せて地域が主体となっていく、いきいき百歳体操やふれあいサロンなどの介護予防事業について、継続開催を支援する。 ・高齢者自身のモチベーションにも繋がるよう、介護予防に資する事業評価を継続する。	【評価】 良い取り組みだと思う
	【2-1-4】自発的な健康づくり・健康維持に向けた取組の推進	保健福祉課	・令和6年度は第3次健康づくり計画および第3期津別町国保データヘルス計画に基づき、保健事業を展開していった。新規に開始した事業としては、津別町の特徴的な課題として挙げた40～50代の男性の肥満を改善することを目的とした「男の健幸Project」(運動を講話を行う肥満改善教室)がある。 ・【新規】「男の健幸Project」(運動を講話を行う肥満改善教室):参加者6名、教室開催回数5回、教室終了時に減量に成功した者3名 ・塩分に関心を高める普及啓発活動として、「適塩みそ汁の試飲会」を実施(年間7回、参加334名) ・特定健診後に自分の生活を振り返り、生活習慣病予防につながることを目的に個別保健指導を実施(年間4日間、参加64名) ・津別高校の生徒を対象に、健康に関する講話を実施(1、2年生計38名) ・がんの早期発見を目的に、各種がん検診を実施(胃216名、肺372名、大腸387名、前立腺123名、乳102名、子宮頸111名) ・生活習慣病早期を目的に、津別町国保被保険者を対象に特定健診、後期高齢者健診を実施(合計293名)	・がん検診受診率・特定健診受診率は年々微増しているが低い状態が続いている。 ・受診行動の定着化が課題。	・特定健診受診率向上策(3年連続受診者へインセンティブ付与、健診自己負担額の無償化) ・がん検診受診率向上に向け、無料対象者の拡大 ・肥満改善・塩分に関心を高める・正しい血圧測定方法の普及啓発活動を目的に、「健康増進月間」の取組実施	【提案】 森林セラピー基地を活用した「健康増進」の取組みを推進できないか？ →プログラムの開発と専門人材の育成、プログラムの実施にかかる予算の確保が課題 【提案】 特定検診をきっかけにして次の行動(男の健幸Project等)へ誘導する仕組み作りはどうか。参加人数6名の会に参加するのは躊躇するが大人数なら精神的負担も少ないのでは。適塩みそ汁の試飲会の参加者の多さとの差も気になります。 【評価】 健診が毎年あり素晴らしいと思う、有効活用の観点から、みなさん健診を受けてほしいです。素晴らしい取り組み。 【評価】 男の健幸プロジェクトは初めて聞きました。周知はどのように？ 【評価】

2 保健・医療・福祉「支えあい、安心して住み続けられる地域づくり」～誰もが、いつまでも、いきいきと、安心して住み続けられるまち～

施策 2ー2 福祉の充実「つながり、共に支え合い、誰もが生きがいを持って暮らせる『地域共生社会』のまちづくり」

10年後の目指す姿 (Goal)	主な取り組み (Project)	担当部 署	内部評価 そのために挑戦したこと (Challenge) ※定量的な実績を記載する。	挑戦の中で困っていること (Problem)	次に挑戦すること (Next Challenge)	外部評価 挑戦に対する評価、激励、支援 (Assesment, Encouage, Support)
◎年代、性別、障がいの有無などに関わりなく、地域全体で支え合い、共に生きる「地域共生社会」が構築され、地域コミュニティの力を活かした、地域での見守り・支え合い活動が活発に行われています。 ◎行政・地域・関係機関が一体となった包括的な支援体制の構築が図られ、充実した支援により、より一層高齢者や障がい者が住み慣れた地域で安心して暮らすことができる町となっています。 ◎高齢者が培ってきたことを活かし、より一層生きがいと楽しみを持って暮らせる町となっています。 ◎障がい者の就労の場が確保され、社会の一員として生きがいを持って働くことのできる町となっています。 ◎認知症や障がい、発達障がい、特別支援教育に対する町民一人ひとりの理解度が向上し、相互に尊重し合う、福祉に優しい町となっています。 ◎多様な主体が参加する地域福祉・ボランティアが活発に行われ、福祉事業の先進地・中心地となっています。	[2-2-1] 地域の支え合いによる地域福祉の推進	保健福祉課	・複合課題に対応する包括的相談体制の構築：令和3年度から重層的支援体制整備事業を実施し、複合的な課題を抱える世帯への支援を行うための会議を開催している。会議には、社協、町職員だけでなく、町内外の関係機関を参集し、多機関連携のもと協議を行っている。また、自治会など小単位で住民と社協、行政(町)が課題解決について情報共有や協議を行う場として「身近な福祉相談所ぽっと」を設置し、協議を行っている。 (令和6年度実績) ・会議開催数：14回(6世帯対象) ・身近な福祉相談所ぽっと設置箇所数：4箇所(4自治会) ・身近な福祉相談所ぽっと開催数：60回(うち、社協・行政職員参加は36回) ・認知症の方やその家族を地域の中で見守り、支えていく体制づくりの強化を図ることを目的に継続実施した。令和6年度も、たステップアップ修了者の方に認知症事業(認知症カフェ、家族茶話会等)に参加してもらい、厚みのある地域支援に取り組むことができた。(令和6年度実績) →認知症地域支援推進員による活動(津別社協委託)：「認知症の人にやさしいお店」登録：14事業所、認知症サポーター養成講座：1回/参加10人、認知症カフェの開催：4回/参加延36人、家族茶話会：2回/参加延10人、認知症高齢者見守り事業：12回/訪問延27人 ・認知症高齢者が住み慣れた地域で生活を継続するために、医療、介護等の連携強化による地域の支援体制を構築する活動を行った。(令和6年度実績) →在宅医療・介護連携推進会議：2回/参加延27人、認知症初期集中支援チームによる支援：1人(内新規0人) ・メール配信登録者の伸び悩みに対し、「LINE」アプリを活用した登録方法を3年度から開始。(令和6年度実績) →メール配信システム「ささえねっと@つべつ」登録者：メール394人、LINE 586人/配信0件、徘徊高齢者搜索模擬訓練：1回/参加10人	・身近な福祉相談所ぽっとは、地域共生社会の実現のために必要な地域資源と認識しているが、関わる職員のマンパワー不足により、新たな自治会での開催には至っていない。 ・認知症カフェや茶話会は、ステップアップ修了者の方の情報提供を活かしながら、少しずつ参加者を増やすことができているが、まだ十分な確保ができていない状況。	・社協・町職員が担う役割や頻度の見直しなど継続して行いながら、新たな自治会へのぽっと開設についても検討する。 ・認知症高齢者とその家族を地域で支える体制や新たな事業展開について、7年度中に発足する「チームオレンジ」メンバーと共に検討していく。 ・広報や社協だより、包括機関紙を活用しながら認知症高齢者、支える家族に向けて事業をPRしていく。 ・徘徊高齢者を安全に発見するため、配信システムのPRを継続する。具体的には、高齢者の集まりに職員が積極的に出向き、システムのPRやアプリ登録のお手伝いを行う。	【評価】 2ー2 全体 福祉は新しい事や臨機応変に様々な事業をされて充実しているのではないかと感じます。

*誰もが居場所と役割のある全世代活躍のまちづくりを目指しています。 *社会的孤立者といわれている生活困窮者やひきこもりの状態にある本人・家族を適切に支援する取組を推進します。	【2-2-2】 高齢者が住み慣れた地域で暮らし続けられる環境づくり	保健福祉課	・高齢者が培ってきたことを活かし、生きがいと楽しみを持って社会参加できるよう、規定に則りボランティア活動を行った際にポイントを付与する有償ボランティア事業を実施した。(令和6年度実績) →介護予防いきいきポイント事業 事前研修/参加3人、フォローアップ研修:1回/参加33人(内新規登録者9人)/累計125人(65歳以上)、活動内容:8か所、延126人 →生活サポートセンター事業 フォローアップ研修:1回/参加18人/累計79人、活動利用者:延36人、サポーター延43人 ・高齢者の様々な権利を守ることを目的とし、虐待防止や成年後見・市民後見推進に関する取り組みを行った。(令和6年度実績) →虐待防止研修会:1回、市民後見人フォローアップ研修:3回/延42人 ※一部事業は津別社協へ委託し実施。	・有償ボランティア、市民後見人どちらも共通して、登録者の確保はある程度できているが、決まったボランティアのみが活動している状況。また、活動している方々の高齢化も課題。 ・有償ボランティア、生活支援サポートに関しては、積極的に活動しているボランティアのインセンティブ付与に対する内容や方法の検討も必要。(ポイント付与の期間や上限設定を決めていることからポイントを捨ててしまうこと等があるため)	・令和7年度から、有償ボランティア、生活支援サポーターのポイント付与などの仕組みについて見直しを行ったので、を委託先である津別社協と見直した結果を検証していく。 ・ボランティア、市民後見人の拡大と活動意欲を高めるために何が必要なのかを分析し、委託先である津別社協を検討していく。	【評価】 必要だと思う ただ医療、介護等で難しい事もあるのかと
	【2-2-3】 予防を重視した在宅福祉・介護サービスの充実	保健福祉課	・高齢者の実態把握を目的とし、介護予防事業の参加状況や関係者からの情報提供、家族からの相談、職員が家庭を訪問して生活状況を把握した。 【個別訪問】年度内に80歳、85歳、90歳、92歳以上の年令に到達する者を個別に訪問し、生活状況を把握した。(令和6年度実績) →80歳:17人、85歳:32人、90歳:15人、92歳以上:5人、介護認定を受けているがサービス未利用者19人、前年度対象又は対象年齢外:12人 【安否確認訪問】生活支援員(ホームヘルパー)が定期的に訪問することにより、登録者の生活・健康面の変化を把握し早期に生活支援方法を検討した。(令和6年度実績)→12回/訪問延71人	・これまで介護状態になってから対応していた高齢者について、「事前対応型」の支援が行えるようになったが、発見後のフォローについてマンパワー不足である。 ・心配な高齢者を発見しても、ご本人の意思や住環境などから、改善が難しいケースが多い。	・介護予防のため生活状況の改善が必要な高齢者に、適時必要な支援が行えるよう、地域住民とも連携できる場の継続。例)住民主体で運営する集まりを拡大や、新たな介護予防事業のメニュー化、身近な福祉相談所「ぽっと」の開催支援等	【評価】 良いと思う
	【2-2-4】 障がいのある人が自立しやすい環境づくりの推進	保健福祉課	・関係機関と連携し、町内に在住している障がい者の実情アセスメントを実施することにより、適切なサービスに繋げることができた。(令和6年度実績) 就労系サービス:新規利用者 2人、総利用人数 24人(町外事業所含む) 共同生活援助(グループホーム):新規利用者 2人、総利用人数 31人(町外事業所含む) 児童通所サービス:新規利用者 11人、総利用人数 27人	・就労系サービス、共同生活援助(グループホーム)について事業所が少なく、女性用グループホームについては町内事業所がない状況である。 ・農福連携については、現状話し合いが進んでいない状況である。実現した場合、繁忙期のための雇用では安定したサービス供給とは言えないので、実施する場合は通年雇用についての検討が必要である。 ・当事者意見を聴取する機会が少ない。	・サービスを利用する障がい者からの聞き取りや当事者団体との意見交換などを行いながら、必要な地域資源の創出や、農福連携のために必要な意見聴取などを行う。	【評価】 農福連携の取り組みはこれからとのことなので注目しています。

3 成果基盤・環境保全「選ばれる安心快適なまちづくり」～住みやすさを実感できる快適で豊かな生活環境のあるまち～

施策 3-1 交通環境の整備「快適・安心で潤いのある生活を支え人とまちの魅力をつなぐ交通環境の確保」

10年後の目指す姿 (Goal)	主な取り組み (Project)	担当部 署	内部評価 そのために挑戦したこと (Challenge) ※定量的な実績を記載する。	挑戦の中で困っていること (Problem)	次に挑戦すること (Next Challenge)	外部評価 挑戦に対する評価、激励、支援 (Assesment, Encouage, Support)
◦地域交通（公共交通）として移動ニーズに対応した移動サービスが確保されており、町民の交通環境が整備されています。 ◦町民の潜在力も含めた地域力が発揮され、地域に最適な利便性の高い生活交通等、地域交通の維持・確保が進められています。 ◦新たな技術の進歩を踏まえ、地域の実態に即した新たなモビリティサービスの導入検討が進められています。	[3-1-1] 津別町の地域特性に応じた面的な地域交通ネットワークの再構築	建設課	○津別町地域公共交通計画に基づき、タクシー利用助成券交付事業及びコミュニティバスの運行を実施した。 タクシー利用助成券発行者数 412人/年 タクシー利用助成券発行枚数 19,060枚/年 タクシー利用助成券使用枚数 9,424枚/年 コミュニティバス利用者数 1,522人/年 ○津別町地域公共交通計画改定	近い将来に直面する運転手担い手不足（運転手の確保）	利用者ニーズに即したまちバスの運行時間等の見直し及び町内外交通の持続確保	【質問】 バスの路線を確保する対策はあるのでしょうか 【質問】 助成券発行枚数に対して使用枚数が半分 コミュニティバスの使用率は高いのか？ 【評価・提案】 3-1 全体 ご尽力ありがとうございます。 やはり交通の便が悪いということと、料金が高いのは住むうえでデメリットですのでなんとか解決出来たら良いですね。 観光も含めてライドシェア（白タク）の候補地になってくれたら良いと感じます。 【提案】 国の特区などを活用した「Uber（ウーバー）：タクシー配車システム」の導入検討や、メーカーとの協働による自動運転の実証実験の招致など、次世代交通システムの導入に向けた検討・取組を推進していく。 （道々588号のような交通量が比較的少なく、直線主体の道路などで、積雪期を含む自動運転実験や観光利用での実証実験など）
	[3-1-2] 地域交通（バス）の利便性向上と利用促進に向けた取組の推進	建設課	○スクールバス予約システム稼働（7路線）	近い将来に直面する運転手担い手不足（運転手の確保）	利用者ニーズに即したまちバスの運行時間等の見直し及び町内外交通の持続確保	【提案】 津別タクシーと協力して日本型ライドシェアの検討と導入を推進してはどうか。 【評価・提案】 地域巡回バスなど、どのくらい利用されてるか、ちゃんと統計とって無駄なく、利用してもらいたいですよね、車ない人にとっては頼りにしてると思うので

3 生活基盤・環境保全「選ばれる安心快適なまちづくり」～住みやすさを実感できる快適で豊かな生活環境のあるまち～						
施策 3－3 生活基盤の整備「ずっと暮らし続けたいと思える安全・安心な生活環境の整備」						
10年後の目指す姿 (Goal)	主な取り組み (Project)	担当部 署	内部評価 挑戦したこと (Challenge) ※定量的な実績を記載する。	挑戦の中で困っていること (Problem)	次に挑戦すること (Next Challenge)	外部評価 挑戦に対する評価、激励、支援、質問 (Assesment, Encourage Support, Question)
●町内で日常の買い物ができる環境が整っています。 ●町民が地元の美味しい野菜や特産品を気軽に購入することができるようになっています。 ●空家・空き店舗が減少し、すっきりとした街並みと景観が保たれたまちとなっています。 ●誰もが手軽に様々な情報を得ることが出来る情報通信網が充実しています。 ●災害時などいかなる場合においても、常に安全で安定した水の供給と生活排水の処理ができる環境が整備・保全されています。	【3－3－1】 買い物環境の充実	産業振興課	●起業等振興促進条例に基づき、集合住宅建設及び生産施設の更新等、計5件(企業)を支援 ●お買い物割引券については、R6年度に企画し準備発送を進めた。(令和7年度にお買物券を発行)	●既存店主の高齢化	●4月から8月に使えるお買い物割引券を配布	【質問】 ニコットも含めて、町内にある商店を持続させるための計画(対策)はあるのでしょうか 【質問】 サツドラ誘致の際、町民健康サポートやプログラムなども誘致の決め手と説明があった様に思いましたが、その後はどうになりましたか？ 【評価】 3－3 全体 目指す目標は実現できてきていると思います。 【評価】 良くなった お買い物券はありがたい 【評価】 サツドラ、ニコットが新設されたことにより、充実度が比べ物にならないくらい上がったと思います。
		住民企画課	【再掲(1-1)】 市街地に、「大通地区コミュニティ施設(愛称 ウッドリーム)」に続き、ドラッグストアを含む「幸町地区コミュニティ施設」が完成。11月に供用開始し、買い物環境の充実を図った。	●人が集まり賑わいや活気をもたらす仕掛け作りを民間事業者と連携して進める必要がある。	●町の活性化に資する取り組みを行うため、サツドラとの連携協定を締結する。	【提案】 リノベーション住宅の賃貸化を検討したが、自主財源のみでは利回りが悪いため販売を選択せざるを得ない。補助金が入ることで賃貸化は可能と考える。 【評価】 子育て世代の方も、同様の意見内容で困っていました。少しでも改善できることを期待しています。 【要望】 空き店舗の活用を推進してほしい。広く全国から募集し、補助をして新たな街を再構築する流れを作してほしいです。
	【3－3－2】 空家・空き店舗の利活用の推進	住民企画課	●空き家バンクの活用により空家等情報の一元化及び利用者への紹介等を通じて空家利活用を図った。 →空き家等延べ登録数:空家54件(うち新規6件)、土地130件(うち新規18件) →利用希望者延べ登録数:239名(うち新規25件) →令和6年度 マッチング件数:9件	●町内に引っ越す予定があっても、すぐに住める賃貸物件を希望している方に対する物件や家族連れの方に対する戸建て賃貸物件がほとんどないが、賃貸物件は管理が必要なため件数を増やすことも容易でない。	●すぐに住める家族連れ向けの賃貸物件(戸建て)の掘り起こしや、移住が決まっている・決めている方を対象とした移住住宅の整備を検討していく。	
	【3－3－3】 町内施設における公衆無線(Wi-Fi)の充実	総務課	ウッドリームへの公衆WiFiの設置を行った。	近年のネットワークの利用需要の高まりから、より広帯域化、高セキュリティ化が求められている。また、ネットワークラブルへの迅速な対応が求められているが、職員のスキルでは対応が困難である。	公衆WiFi設備の更新と、専門業者への管理のアウトソーシング等について検討を行う。	
	【3－3－4】 安心で快適な社会基盤を備えたまちづくりの推進	建設課	【住宅】空家撤去に対し補助。10件499.5万円。 【道路河川係】各種修繕計画に基づき、道路改良3路線・橋梁2橋・歩道3路線・舗装1路線の修繕を実施。		【道路河川係】各種計画に基づく修繕工事について継続する。	
	【3－3－5】 防災体制の整備	総務課	●出前講座「高台町ほのぼのサロン(8名)」「共和第4自治会防災教室(20名)」「津別高校1日防災学校(30名)」「豊永第3自治会防災体験研修会(29名)」と「津別小学校4年生出前授業(30名)」を実施。 ●災害備蓄非常食の補充。	地域住民や関係機関との連携や情報共有	●職員等の訓練や研修の拡充 ●住民参加の実践的な訓練実施	【提案】 町民を対象とした「野外災害救急法」の講習会を実施出来ないか？ 【質問】 消防や消防団訓練の見学や体験などがありますか？将来の団員確保も課題に入れて欲しいです。 【要望】 最近地震も増えています。町内企業とも連携を強化して情報共有、訓練を実施してほしいです。 【提案】 最近地震等が多いから積極的に取り組むべき

3 生活基盤・環境保全「選ばれる安心快適なまちづくり」～住みやすさを実感できる快適で豊かな生活環境のあるまち～

施策 3-4 環境保全・エネルギー政策「『エコタウンつべつ』実現に向けた先進的なまちづくり」

10年後の目指す姿 (Goal)	主な取り組み (Project)	担当部署	内部評価			外部評価
			挑戦したこと (Challenge) ※定量的な実績を記載する。	挑戦の中で困っていること (Problem)	次に挑戦すること (Next Challenge)	挑戦に対する評価、激励、支援、質問 (Assesment, Encourage Support, Question)
◦再生可能エネルギー（太陽光・バイオマス）の比率が高まり、石油燃料依存体制からの脱却を実現し、持続可能な循環型社会・低炭素社会に近づいています。 ◦木質バイオマスによる暖房システムが町全体に整備され、各施設での木質バイオマスボイラーの普及率が高まっています。 ◦「エネルギーの地産地消」の実現に向けたエネルギー政策を積極的に推進しています。	[3-4-1] 木質バイオマス活用促進に向けた取組	産業振興課	・資源、エネルギー、経済の持続的な地域内循環に向けて、令和6年度は、下記の取り組みを実施。 ①つべつウッドロスマルシェの開催(5月～11月の月1回開催)。町内外から昨年度実績 ②移転新築する特別養護老人ホーム及びデイサービスセンターの計画にあわせ、周辺施設を含めて暖房及び給湯を化石燃料から木質バイオマス燃料への転換を目的とする地域熱供給計画を整備するため、調査および意見交換を実施。 ③再エネ勉強会(2/27)を開催し、町民等への木質バイオマスの普及促進及び意見交換、情報共有を行った。 ④公共施設に導入している木質バイオマスボイラーによって削減される二酸化炭素を、J-クレジットとして創出する取組を開始。	・住民及び関連事業者等との合意形成。 ・安定した材の確保。 ・専門知識を有した機関との連携協力。	・木質バイオマスによる複数施設への熱供給を行うため、基本設計・実施設計を行う。 ・木質バイオマスセンターにおける様々な需要への対応方法を検討する。 ・つべつウッドロスマルシェの参加者拡大に向けた取組周知。 ・化石燃料の価格に影響しないエネルギー地産地消のまちづくり。 ・住民等への勉強会を継続開催し、更なる合意形成を図る。	【評価・質問】 3-4 全体 ほぼ山の町なので可能性はあるのかと思いますので良い取り組みなのではと思います。 ただ安価なものと利便性や安全性などで消費者としては躊躇してしまうところ です。 自宅や倉庫などの廃材でも燃料化できる様考えて欲しい。ペレット加工側だけで無くストーブなどの改良などで実現できないだろうか？ 【評価】 複数施設への地域熱供給は更なる取り組みとして注目しています。
	[3-4-2] 再生可能エネルギーの推進・PR	産業振興課	・町広報(2024年5～11月号)にて、毎月「つべつウッドロスマルシェ開催」の折込チラシを配布。 ・町広報くらしのガイド(2024年5月号)にて、補助金制度のお知らせ(太陽光、ペレットストーブ)を掲載。 ・町広報(2024年10月号)にて、補助金制度のお知らせ(ペレットストーブ)を掲載。 ・役場庁舎、消防庁舎、ウッドリームの暖房における省エネ運転に向けた調査と改善試験等を継続実施。	・地域資源である木に関心を持ってもらうこと。また、木を集める仕組みを町民に周知し、理解し、協力してもらうこと。 ・専門用語をわかりやすく簡潔に伝えること。 ・再エネの設備費用等コストが高いこと。	・「エネルギーの地産地消」の実現に向けて、町民に再生可能エネルギーの取り組みを周知するため、年1回広報等により再エネの取組を掲載する。	【提案】 ペレットストーブを導入されるご家庭が増えつつあるが、肝心の燃料となる木質ペレットの販売方法が複雑であり、ストーブを導入されたご家庭から時折不満の声が聞かれる。ペレット協同組合との兼合いもあるかと思うが、まちづくり会社やサツドラ、さんさん館で購入できると非常に利便性が良いという声が聞かれるためご検討頂きたい。

4 産業・雇用「人・地域が輝くたくましい産業づくり」～未来へ繋ぐ農林業の振興と果敢なチャレンジが生まれるまち～

施策 4－1 林業の振興「人・木・森を育て新たな価値を創出する未来へと繋ぐ森林産業の振興」

10年後の目指す姿 (Goal)	主な取り組み (Project)	担当部署	内部評価 挑戦したこと (Challenge) ※定量的な実績を記載する。	挑戦の中で困っていること (Problem)	次に挑戦すること (Next Challenge)	外部評価 挑戦に対する評価、激励、支援、質問 (Assesment, Encourage Support, Question)
●林業が誇りある基幹産業として地域を支え続けています。 津別の林業・林産業ブランドイメージと全国的な知名度がより高まっています。 ●林業が若者の憧れの職業になっています。若い世代に林業・技術が引き継がれています。 ●森林・林業教育が学校や地域で行われ、子どもから大人まで津別の林業・木材加工技術に関する知識を持ち、全国の人に向けて町民一人ひとりがその魅力を発信できるまちとなっています。 ●労働環境や安全面のさらなる向上により、安定した収入が確保され、意欲的で高い技術を持った林業従事者が多く働いています。 ●ICT化・機械化による効率化が進み、先駆的な技術・手法を取り入れた持続可能な林業が展開されています。 ●適正な施業と維持管理により、植え付けから伐採・利用までの理想的なサイクルが整い、木材需要に対応した、多様で健全な森林が形成されています。 ●地域資源を活かした木質バイオマスなど再生可能エネルギーの利用が全町に波及し、温室効果ガス排出削減・災害防止などに寄与しています。	[4-1-1] 労働環境の更なる向上とイメージ戦略による林業技術者及び担い手の確保	産業振興課	・森林環境譲与税を活用し、町内事業体に新たに就職し、1年間就業した場合、補助金を交付している。 →令和6年度は4名が対象となり、補助金を交付している。。	新たに町内事業体に就業している一方、残念なことに、退職者も出ているのが現状である。女性の就業者がいないこと。	北の森づくり専門学院で行う企業説明会に出席する、町内事業体に当該補助金説明資料や津別町パンフレット等を学生に配布し周知してもらう。	【評価】 4－1全体 ご尽力ありがとうございます。補助金も交付しているのですね！ 林業は季節雇用になってしまうのでしょうか？ 働き手が集まると良いですね。
	[4-1-2] 林業の機械化・効率化の促進とスマート化に向けた調査研究	産業振興課	・森林環境譲与税を活用し、町内事業体にて、労働者の安全及び効率化を目的として購入した装備品に対して補助金を交付している。 →令和6年度は1事業体40点の安全装備品購入費に対し補助金を交付している。 ・森林環境譲与税を活用し、町内事業体にて、林業の機械化・労力の省力化を目的として購入した機械に対して補助金を交付している。 →令和6年度は3機の購入費に対して補助金を交付している。 高性能林業機械や苗木運搬用ドローンの導入による機械化・効率化が進んできている。	・林業機械の納期が長い ため、年度内申請、納品が難しいため購入時期に制限がかかる。	補助金を活用し、町内林業事業体が機械化や効率化を図り、若い人材を確保すること。	
	[4-1-3] 林業・林産業のブランディングとプロモーションの推進	産業振興課	相富木材加工の加工技術や製品を周知するため、シラカバ製スプーンを5,000本と木製タグ6,000枚購入し、スプーンは主に町内飲食店等時に配布し、タグはふるさと納税返礼品に同梱や各種イベントで配布し普及啓発を図った。 タウンニュースつべつ＃83にて、相富木材の特集も配信された。	飽きないデザインや品を検討しなければならない。	スプーンとタグの他にマドラーも追加して、普及啓発を図る	【提案】 町内の林業・林産業の事業者と、観光事業者（宿泊施設や体験事業者）が連携し林業・木材加工業を資源とした「産業観光プログラム」を開発する機会（懇談会や協議会など）を創ることは出来ないか？ 【評価・提案】 相富木材の特集は企画内容ともに素晴らしく、デザインなどで差別化することでより魅力的になるのではないのでしょうか。
	[4-1-4] 津別産木材の地域ブランド化と利用促進	産業振興課	4-1-3と同じく令和6年から実施する。	町有林から出材されるシラカバを安定的に確保するのが難しい。	継続的にシラカバを出材できるように事業を計画する	
	[4-1-5] 競争力強化に向けた町内企業との連携強化	産業振興課	令和7年度より実施する予定である。			【提案】 町内の林業・林産業の事業者と、観光事業者（宿泊施設や体験事業者）が連携し林業・木材加工業を資源とした「産業観光プログラム」を開発する機会（懇談会や協議会など）を創ることは出来ないか？ 【提案】 木材を中心とした商品の開発にあたり、林業や木材加工業、鉄鋼業など異業種と協業し、各社の強みを掛け合わせた商品開発を進めてはどうか。
	[4-1-6] 木育の推進と学校教育での林業体験学習の充実	生涯学習課	【木育】 ・「木のまちつべつ」で生まれ育った子どもたちに、津別の基幹産業である林業等への理解を深め、将来を担う人材になってもらうべく、小学校3年生、5年生、中学校1年生の授業に講師を招き、森で木に触れる体験や木工品製作を実施。 【林業体験学習】 ・再生可能エネルギーの活用を学ぶ機会として、中学校1年生を対象に町内ベレット工場や実際にベレットによる暖房を活用している町営住宅の見学を実施。	【木育】 ・講師助手である町内の協力者が高齢のため、後任の選定について検討を行っている。	【木育】 ・学校運営協議会を活用し、担い手発掘を進め、事業を継続させる。	【評価】 木や森に親しんでもらいたいが、近年熊の目撃情報も多く近寄りがたい場所になっている。 体験の機会を増やす取り組みは重要と思います。
		産業振興課	・5年生の木育授業では、校庭内に植栽されている樹木の葉を採取し、こすり描きを行った。 ・3年生の木育授業では、上里に行き天然林と人工林の違いによる説明を行った。 ・津別高校を対象にした、つべつ学については、カラマツ人工林の枝打ち体験バイオマスセンターを会場としバイオマスセンターの見学、グラッブル試乗、薪割体験をした。	屋外での授業となるため、天候に左右される	小学生には山火事の啓発、高校生には北の森づくり専門学院の紹介をする。	

4 産業・雇用「人・地域が輝くたくましい産業づくり」～未来へ繋ぐ農林業の振興と果敢なチャレンジが生まれるまち～

施策 4ー2 農業の振興「持続可能で創造性の高い魅力ある農業の振興」

10年後の目指す姿 (Goal)	主な取り組み (Project)	担当部 署	内部評価			外部評価
			挑戦したこと (Challenge) ※定量的な実績を記載する。	挑戦の中で困っていること (Problem)	次に挑戦すること (Next Challenge)	
◦スマート農業と大型機械化が進み、津別ならではの創造性の高い農業が実現しています。 ◦計画的な農地整備、機械化により、安定的で生産性の高い農業が行われています。 ◦地域で作られた安全・安心で美味しい野菜・農作物を食べることができます。 農業体験や「食育」を通じて、子どもたちが津別町の農業の魅力と価値をより一層感じられるようになっていきます。 ◦「美味しい〇〇〇〇〇といえば津別町」という全国区の特産品が生まれています。 ◦グリーンツーリズムをはじめとする農業×交流の体験プログラムが充実し、新しい人のながれとリピーターが農業への活気をもたらしています。	[4-2-1] スマート農業の導入促進・大型農業機械の導入促進	産業振興課	・津別町農業協同組合が主体となり、NTTドコモ、北見工業大学と連携し、スマート農業実証プロジェクトが推進されている。令和5年度より携帯電波不感地帯解消のための実証試験を実施している。 ・補助事業を活用したスマート農機の導入 ◎令和2～3年度 産地生産基盤パワーアップ事業…GPS自動操舵システム100台、可変施肥対応型ブロードキャスター32台、車速連動装置付スプレーヤ37台、農薬散布ドローン2台 ◎令和4年度 持続的畑作生産体系確立緊急対策事業…農薬散布ドローン1台 ◎令和5年度 産地生産基盤パワーアップ事業…収量センサー付コンバイン4台	・物価高騰の影響により全ての農作業機械が数年前と比べ、3～5割ほど値上がりしていることから、全額個人負担での導入が困難な状況になっている。	・今後も補助事業の動向注視しながら、労働生産性の向上及び経営コストの縮減等を考慮した機械導入を進める。	【評価】 今後も人口は減るし農業の人達も少なくなりそうなのでこの様な取り組みは必要で素晴らしい
			・グリーン・ツーリズム事業においては、商談会への参加や大阪市内の高校への誘致活動等の成果により、教育旅行受入に係る問い合わせが年に3件程度あるものの、200人以上の受入希望がほとんどであり、受入可能人数を大きく超えていることから、受入の実現には至っていない状況である。 ・津別高等学校のつべつ学のカリキュラムで生徒を対象に農業体験を実施した。	・教育旅行受入の基盤となるグリーン・ツーリズム協議会会員の減少が顕著であるため、会員の確保に向けた取組が必要である。	・引き続き、会員の確保に向け、農業者向けの説明会を実施するなど、事業のPRに尽力する。	
	[4-2-2] 「食育」の推進・農業体験の充実による農業の価値・魅力向上に向けた取組	生涯学習課	【農業体験】 ・小学3年生及び中学2年生の総合的な授業の中で生産者の思いを聞いた後に、収穫体験を実施。じゃがいも、かぼちゃの収穫や玉ねぎの選別等を体験している。また、津別小学校では、JA職員を授業にお呼びし、津別で生産している農産物や農家・JAの仕事について説明していただいた。		【農業体験】 ・継続して町の一次産業を体験、知る機会を設けていく。	【提案】 農家での民泊受入れが難しい状況であれば、町内の宿泊施設を活用した形での受入れ検討を行ってはどうか？ 宿泊の負担を減らし、農業などの「体験」の部分のみを受け入れてくれる農家さん・酪農家さんなどと連携することで、スポーツ合宿のような形態を模索することは可能だと思われる。
			・町内の生産者が設立した「つべつTAKE ACTION」(旧:つべつTAKE ACTION MEETING)において、多種多様な検討課題がある中で、食材のブランド化、6次産業化等も協議されている。本団体にはJAや役場、まちづくり会社等も参画しており、官民が一体となって推進していく。R6年度は津別の農産物を使用したチュロスである「つロス」を夏まつりで販売した。	・将来の農家戸数減少対策 ・津別町産農産物を使用した商品の開発や課題解決等	・実現に向けて引き続き協議する。	
	[4-2-3] 津別産食材のブランド化・生産者が主体となった6次産業化の推進	産業振興課				【評価】 まさに、まちづくり会社を中心にやりて行くべきだと思います。 【評価】 6次産業化は津別町が持っているポテンシャルの一つだと思います。津別町が全面的に支援し成功案件を増やしていくことが津別の魅力につながっていくと
	[4-2-4] 農業の担い手の確保・人材育成	産業振興課	・新たな労働力確保に向けて適宜JAとともに協議を行っている。令和4年度に1名、令和5年度にも1名、農業の担い手不足解消に取り組む地域おこし協力隊として計2名がJAつべつに着任した。令和3年度は新規法人が1社設立しており、令和2年度の新規就農者(酪農)1名についても継続して就農時の資金面のサポートや収益の安定に向けた体制整備をJAと連携を行ってきた。また、令和7年4月1日付けで酪農の新規就農者があったためこれまで同様に関係機関と連携し、サポートをしていく。	・各種業界が人手不足である情勢であり、人材の確保が難しい。 ・町内では大規模な農場が多い中で、そもそも新たに新規就農で農業を始めることへの難しさがある(技術面、資金面)	・新規就農者の受入と雇用拡大に向け、引き続きJAと連携を行う。	【評価】 農家の担い手になりやすい様にこれからも補助などは必要かと思う。 【評価】 第三者事業継承の実績がある程度実を結べば、アピールしやすいが、その段階までまだまだ時間がかかると思われるので、今後は関係機関や行政の更なる連携を持って取り組むべきだと思います。

	[4-2-5] 強い農業・持続可能な農業に向けた基盤整備	産業振興課	・本町の農業における生産能力の拡大と持続可能な農業の推進のために下記の事業を計画、実施した。 1、土地改良等 ①国営農地再編整備事業(津別地区)H27年から継続、R6完了 受益面積2,432ha、R6実績・完了 区画整理工事362ha ②道営水利施設等保全高度化事業(津別1地区)R3年新規採択 受益面積220.2ha R6実績 区画整理工事75ha ③道営水利施設等保全高度化事業(津別2地区)R4年新規採択 受益面積313.6ha R6実績 管路工 L=1,710m、ポンプ場1か所、配水池1か所 ④農業水路等長寿命化・防災減災事業(恩根地区)R4新規採択 受益面積533ha R6実績 電気計装機器製造一式 ⑤農業水路等長寿命化・防災減災事業(高台地区)R6年新規採択 受益面積65ha R6実績 農業用排水路測量設計 L=54m ⑥小規模土地改良事業 R6実績 暗渠排水 L=154m 2、農業生産機能維持向上 ①多面的機能支払い交付金事業 鹿侵入防護柵・農業用排水・農業用作業道等の維持補修(耕地係) ②鳥獣被害防止対策事業 有害鳥獣の駆除 ③環境保全型農業直接支払交付金事業 環境に配慮した農業生産への支援(農政係)	1、土地改良等 気象変化に伴い土地改良のニーズは高まっている。加えて農業従事者の高齢化及び労働力不足に伴う機械の大型化に対応することが必要となっている。 また、安定的な生活および営農を行うための営農用水等の整備が必要となっている。 2、農業生産機能維持向上 農業従事者の高齢化及び労働力不足に伴う担い手の確保が必要となっている。	1、土地改良等 ①道営水利施設等保全高度化事業(津別1地区)継続 営農用水整備(津別2地区) 継続 新規地区採択 ②農業水路等長寿命化・防災減災事業(恩根・高台地区継続) ③小規模土地改良事業 継続 2、農業生産機能維持向上 ①多面的機能支払い交付金事業 継続 ②鳥獣被害防止対策事業 継続 ③環境保全型農業直接支払交付金事業 継続	
--	------------------------------	-------	--	--	--	--

4 産業・雇用「人・地域が輝くたくましい産業づくり」～未来へ繋ぐ農林業の振興と果敢なチャレンジが生まれるまち～						
施策 4ー3 雇用確保・商工業の振興「多種多様な働く場を広げ誰もが笑顔で働くことができるまちづくり」						
10年後の目指す姿 (Goal)	主な取り組み (Project)	担当部署	内部評価 挑戦したこと (Challenge) ※定量的な実績を記載する。	挑戦の中で困っていること (Problem)	次に挑戦すること (Next Challenge)	外部評価 挑戦に対する評価、激励、支援、質問 (Assesment, Encourage Support, Question)
●まちなかに複合商業施設が整備され、町内で生活に必要な買い物をすることができます。 周辺に多様な業態の店舗が営業しはじめ、中心市街地ににぎわいが戻ってきています。 ●世代間・異業種・同業種の交流が活発に行われ、横の連携による様々な活動が行われています。 ●若者にとって魅力ある仕事があり、住みやすい環境が整い、若者の定住が進んでいます。 ●老若男女、障がい者も高齢者も外国人も、働きたい人が働ける、魅力ある仕事や働きやすい環境が整っています。 働き手のニーズと仕事のマッチングにより労働力不足が解消しています。 ●店舗や経営者の事業承継が進み、若者へノウハウやスキルが受け継がれています。	【4-3-1】若者の定住促進策と連動した若者の雇用推進	住民企画課	ドラッグストアの誘致により雇用の推進が図られた。	都市部への転入が依然多く、地方移住に対する意識が全国的に弱い。	・立地条件(北見や女満別空港等へのアクセスの良さ、自然環境の豊かさ)を生かした、効果的な移住定住に関する情報発信を進めていく。 ・限られたチャンス内でのイベントへの参加など、推進のために最大限促進していく。	【質問】 地方移住に対する意識が全国的に弱いのですか？肌間では逆だと思いますが…。 【提案】 北見市の財政難を逆手にとり、身近な北見市民(津別への通勤者や若年者)へアプローチしてはどうか。他市町村に比べて財政が健全である(津別には仕事がある)ことを評価する声を時折聞くことがある。
		産業振興課	【再掲(1-1-4)】 ・UIJ新規就業支援事業の継続実施と町内企業への法人登録の推進。 ・小規模事業者若者雇用促進助成金事業の継続実施。R4から対象若年者の要件を一部緩和(正規雇用された日の属する月に町内に住所を有すこと者→正規雇用された日から1年以内において町内に住所を有する者) →R6新規実績:2事業者2名	・量的に雇用機会はあるものの、求職者とのミスマッチが生じている。	・UIJ新規就業支援事業の継続実施。	
	【4-3-2】商業の振興と買い物環境の確保(複合商業施設の整備)	住民企画課	【再掲(1-1)】 市街地に、「大通地区コミュニティ施設(愛称 ウッドリーム)」に続き、ドラッグストアを含む「幸町地区コミュニティ施設」が完成。11月に供用開始し、買い物環境の充実を図った。	・人が集まり賑わいや活気をもたらす仕掛け作りを民間事業者と連携して進める必要がある。	・町の活性化に資する取組みを行うため、サツドラとの連携協定を締結する。	【質問】 町外居住で町内勤務の方にも配布ではなく購入として実施し、少しでも町内店舗の利用促進につなげる計画等はあるのでしょうか 【評価】 サツドラができたのは買い物環境としては大きいです。ネットでの買い物と組み合わせることで充実してきました。
		産業振興課	【再掲(3-3-1)】 ・起業等振興促進条例に基づき、集合住宅建設及び生産施設の更新等、計5件(企業)を支援。 ・お買い物割引券については、R6年度に企画し準備発送を進めた。(令和7年度にお買物券を発行)	・既存店主の高齢化。	・4月から8月に使えるお買い物割引券を配布。	
	【4-3-3】多様な働き手・担い手による労働力確保	保健福祉課		0 ・令和6年度は、新たなお試し就労事業所の登録がなく、一般企業への就労支援も行えていない。 ・定年後のライフスタイルの変化や、既登録者の高齢化、新規登録者の減により、登録者数が減少傾向にあります。	・お試し就労の推進等の就労支援の促進については、障がい者就業・生活支援センターと連携し、障がい者のニーズ把握や自立支援協議会・町内の関係機関と協議しながら、雇用や就労の場の拡大に努める。 ・人材活用センターの運営が継続できるよう必要な経費を補助し、担い手の確保についても協議を行う。	【提案】 フィードバック方法なら特典付きアンケート実施などしたら良いのでは？活動の成果は明確に出した方が良いと思います。 【提案】 今はYouTube等をみて就職希望者もいるのでその様な物も上手く使うと良いかも 【評価・提案】 ワークINツベツの求人を見て、企業さんに紹介し、就職が決まった事例もあります。 多様な担い手による労働力確保を考えていくなら、当初から検討されていた、パートアルバイトの求人も掲載できるようするのがいいのではないのでしょうか？企業さんとの密な連携を図るには情報交換ができるようなしくみに変えることも重要かなと思います。 【評価】 どの企業も個人経営者も働きてはほしいはず、どのように人材を確保できるか。今後アイデアを出し合い共有しながら進めてほしいですね 【評価】 ワークINツベツの内容は素晴らしいが更新頻度が少ないのが伝わり、情報の
		住民企画課		0 ・町内の事業所の就職にサイトによる効果があったかわからない。(フィードバックする方法がない)	・掲載情報の更新や新規掲載事業所を増加させる等の取組みを進めていきたい。	

	[4-3-4] 各種交流促進によるスキル・ノウハウ継承の推進	住民企画課	・北海道大学学生団体HALCCと津別高校生との、「調べる力」「考える力」「伝える力」を身に着けることを目的とした、高大連携事業を実施。大学生を通じてまちづくり人材の育成を図った。 →高校生による提案21件(令和6年度)	・提案にとどまり、町の施策等に反映することが難しい。 ・実施に際し、HALCCメンバーの属人的な業務が増えないようにする事や、本業である学業に支障が出ないように配慮する必要がある。	・「提案」のみに止まらず、形として残る「成果」として残せるようにする。	【評価・提案】 HALCCや高校生の提案内容は粗削りな部分が多く、そのまま成果報告会で報告されている印象を受ける。提案の検討段階から役場の若手職員とHALCCや高校生が、まちづくりに対して一緒に考える機会を増やすことで、役場若手職員のまちづくりに対する意識向上やモチベーションの向上、HALCCや高校生は町の施策に反映できる成果を残せる良い機会になるのではないか。 【評価】 「成果」として残す・・・素晴らしい考えだと思います。応援しています。
	[4-3-5] 企業誘致・街並みの整備	産業振興課	・起業等振興促進条例補助金事業を活用。 R6に町内1事業者が店舗を新築移転した。 R6に町外1事業者が相生地区の民家を改装し、新たな民泊施設を開業予定。(開業はR7) ・町内企業協力のもと、津別高校が国道240号沿いに新たな高校の看板を設置した。		・起業の促進及び企業活動の支援を目的に起業等振興促進条例の活用を推進していく。	【評価】 街がキレイになった印象
		住民企画課	・スーパー、図書館、交通拠点の一体的な施設「大通棟」に続き、隣にドラッグストアを誘致した「幸町棟」が完成し稼働した。	・人が集まり賑わいや活気をもたらす仕掛け作りを民間事業者と連携して進める必要がある。	・公共施設が新たに整備されてきたことから、施設の場所を示す「サイン」(矢印標識)を高大連携の中でデザインする。	

4 産業・雇用「人・地域が輝くたくましい産業づくり」～未来へ繋ぐ農林業の振興と果敢なチャレンジが生まれるまち～

施策 4-4 創業支援「創造・革新・交流が生み出す好循環が人を惹きつけ新たなビジネスを創出するまちづくり」

10年後の目指す姿 (Goal)	主な取り組み (Project)	担当部 署	内部評価			外部評価
			挑戦したこと (Challenge) ※定量的な実績を記載する。	挑戦の中で困っていること (Problem)	次に挑戦すること (Next Challenge)	挑戦に対する評価、激励、支援、質問 (Assesment, Encourage Support, Question)
●新規起業への支援制度や体制、情報発信が充実し、創業・起業するために多くの人が集まっています。 ●空き店舗を有効活用したビジネスの拠点や魅力的な店舗の開業、交流の場など、多様な広がりを見せています。 ●事業承継が進み、自営業者の世代交代が円滑に進んでいます。	[4-4-1] 創業・起業・交流のための空き店舗等の活用	住民企画課	・空き家バンクの活用により空家等情報の一元化及び利用者への紹介等を通じて空家利活用を図った。 →空き家等延べ登録数:空家54件(うち新規6件)、土地130件(うち新規18件) →利用希望者延べ登録数:239名(うち新規25件) →令和6年度 マッチング件数:9件	・大幅な改修が必要な物件が多く、活用しやすい物件の発掘が必要だが、難航している。	・空き家バンク、コワーキングスペース、地域おこし協力隊などの各種制度や施設の連携を通じて、空き家や空き店舗を活用した起業等を推進していく。	【評価】 「大幅な改修が必要な・・・」その通りだと思います。現実的ではないので町外でチャレンジする人が多いと感じます。津別で挑戦するメリットを感じていただけるように出来たら良いと思います。 【評価】 空き店舗が活用されることは町の雰囲気、活気づくりに直結しているので町として支援、推進をお願いしたいです。
			・森林環境譲与税を活用し、町内事業体に新たに就職し、1年間雇用した場合、事業体に対して補助金を交付している。 →令和6年度は2事業体の4名が対象となり、補助金を交付している。。(林政係) ・商工会や両信金が地元企業・経営者の支援を実施。 ・先端設備等導入計画の認定継続。 →R6実績:新規1件、変更3件 ・創業支援計画に基づく特定創業支援認定の継続。 →R6実績:認定1件 ・起業等振興促進条例補助金事業 →R6新規実績:認定5件 ・その他に小規模事業者若者雇用促進助成金事業、特産品販路拡大支援補助金事業、特産品販路拡大支援補助金事業も継続助成中(商工観光係)	・経営者の高齢化、事業継承への支援。 (商工観光係)	・他町と連携した雇用対策の推進。 (商工観光係)	【要望】 これらはヒアリングして、ニーズに寄り添って支援してほしい、企業や経営者によって支援してほしい内容はさまざまなので 【要望】 林業に限定せず、町内企業で働く若者を雇用する際の補助金事業を打ち出してほしい。(町内に住所を有さず、町外から通勤する者に対して) 【評価】 これからも同じく続けてほしい
			・起業支援については、町のホームページ、くらしのガイド、移住サイトの他、商工会や両信金、日本政策金融公庫とも連携し、情報発信を継続。町外の起業希望者の問合せも増えている。 ・創業支援計画に基づく特定創業支援認定の継続。 →R6実績:認定1件 ・起業等振興促進条例補助金事業 →R6新規実績:認定5件		・他町と連携した雇用対策の推進。	【質問】 活動報告会時、隊員の負担への配慮が足りなかったのでは？案内の遅延や計画に無理は無かったですか？ 【評価】 地域おこし協力隊の活動、その後の起業移住の流れは素晴らしいと思います。今後も継続してほしいです。
	[4-4-3] 起業支援・人材育成	産業振興課	・地域おこし協力隊員を対象として、自主研修等に係る旅費及び研修負担金を負担することで、人材育成を図った。 →参加研修等:延べ5回 ・地域おこし協力隊員の活動に対し、町民に理解してもらうべく周知する機会として、活動報告会を行った。 →参加者数:77名	・隊員が業務の日程的に、参加したくても参加できないという場合がある。 ・活動報告会については、昼間の開催だと仕事で来られない等の意見もあり、夜間だと仕事で関わる人に対しアプローチしにくい。	・町内外の地域おこし協力隊員同士の繋がりを作る工夫を行い、隊員同士の情報共有についても推進していきたい。 ・日頃より、地域おこし協力隊の活動を理解してもらう施策に取り組んでいきたい。	

5 観光・交流「世界に発信できるつべつ・地域魅力づくり」～地域資源の価値向上と交流がさらなる魅力につながる強みを活かした観光のまち～						
施策 5－1 観光地域づくりの推進「地域資源の価値を高める持続可能で戦略的な観光地域づくりの推進」						
10年後の目指す姿 (Goal)	主な取り組み (Project)	担当部署	内部評価 挑戦したこと (Challenge) ※定量的な実績を記載する。	挑戦の中で困っていること (Problem)	次に挑戦すること (Next Challenge)	外部評価 挑戦に対する評価、激励、支援、質問 (Assesment, Encourage Support, Question)
●「〇〇といえば津別町」と知名度のある特産品や観光地があり、津別町産の物を食べたり、購入できる場所があります。 ●魅力発信人材やガイド、外国語対応可能な人材が育ち、全国・世界各国から観光客が訪れるようになっています。需要に合った宿泊施設が整備されています。 ●広域連携しながら道東の定番観光ルートに津別が入っており、多くの人々が立ち寄るまちとなっています。 ●「稼ぐ力」を引出し、持続可能で地域資源の保全をしながら観光客を受け入れる観光振興体制が整っています。 ●エコツーリズムによる人的交流・観光が活発に行われています。	[5-1-1] 観光プロフェッショナル人材による観光地域づくりに特化した組織の形成と推進	産業振興課	NPO法人津別観光協会の自立化に向けた支援。	観光地域づくりの中核となる人材の不足。	・NPO法人観光協会を中心とした、観光地域づくりの人材育成。 ・観光事業者の横の連携。	【評価】 「イベントの実施」が観光協会の主な活動となっており、イベントが「観光地域づくり」につながる仕組みづくりが出来ておらず、観光事業者との連携が不足している。 【評価】 町の補助金を中心に運営している観光協会が自立化を掲げて何年も経過しているが、自立化できる見込みがない。観光協会の理事も高齢化し、今後は存続自体が厳しい状況に思われる。 【評価】 祭り等継続的に出来る様に人材確保が必要そう
	[5-1-2] インバウンド対応の推進	産業振興課	多言語による観光デジタルマップの配布。 チミケップ湖キャンプ場の看板の多言語を実施。	インバウンドに対応した町内案内看板等が未整備。	・観光デジタルマップの利用促進。 ・インバウンドに対応した観光案内看板の作成検討。	【評価・提案】 観光の現場(津別峠やチミケップ湖、ノンノの森など)での看板(特に注意看板)などの多言語化が行われておらず、迷惑行為が多発している。文化や風習が違う地域から訪れる観光客(インバウンド客)に対して、日本式のマナーを前提とした対応は、インバウンド客には通用しないため、多言語による「ルール」の周知が必要である。 また、地域の観光資源をインバウンド客に「利用される」だけではなく、利用料などの「対価」を受取れる仕組みを作らなければ、観光資源を持続可能な形で利用し続けることが不可能になり、インバウンドのみならず「観光による地域破壊」となる可能性が高い。 地元地域にとって観光が負担とならない仕組みを創った上で、インバウンドはもちろん、国内の観光PR・誘客を進めていくべきである。 【提案】 グーグルマップに充実した言語情報をアップしてはどうでしょうか。グーグルマップを活用する人が多数派だと思いますし費用面でも優位かと思います。
	[5-1-3] 持続可能な観光地域づくり	産業振興課	○エコツーリズムの推進に向け、令和6年5月に「津別町エコツーリズム推進協議会」を立ち上げた。 ・協議会(委員26名(団体)、アドバイザー4名、オブザーバー21名(団体)) 年5回開催 ・町民学習会開催(令和6年10月開催) 講師 海津ゆりえ氏 (文教大学教授／町エコツーリズム推進協議会アドバイザー) 参加者65名 ・先進地視察実施(令和6年11月実施) 視察地: 青森県十和田市 (奥入瀬溪流エコツーリズムプロジェクト実行委員会)	・協議会にて策定した全体構想の認定を受けるために、複数の省庁と協議。	・エコツーリズム推進協議会にて策定したエコツーリズム推進全体構想を策定する。 ・協議会にて策定した全体構想の認定へ向けた協議。	【評価・提案】 観光事業者はもちろん、観光協会を含めて「観光地域づくり」に関する知識・意識向上に向けた取り組みが必要であり、「エコツーリズム推進協議会」を中心とした持続可能とするために必要な「仕組みづくり」「ルール作り」を早急に進めていく必要がある。 また、「観光税・宿泊税」のような「観光利用者＝受益者」が負担し、地域資源(観光資源や自然資源・観光施設など)の維持管理や修繕・改修など、地域へ再投資する仕組みを官民協働で推進していく必要がある。 【評価】 エコツーリズムは時代に合った取り組みと思います。津別町とも相性がいいと思いますので今後も頑張ってください。
	[5-1-4] 町民が実感できる地域の魅力づくりと魅力発信人材の育成	産業振興課	・新たな観光PR映像を制作。 ・テレビ局と連携し、2つの津別町を特集した2番組を放送。	知名度向上。 観光への関心度。	・新たな観光魅力発信番組の制作。	【質問】 勉強不足ですみません、「新たな観光PR映像」はすでにあるのですか？利用させていただきたいです。 (作成されたのは、保険福祉課かもですが)町谷パース工房さんがイラストを描いた津別町マップ大変人気があります。「街歩きしたくなる」「津別の魅力が伝わってくる」と好評です。こちらは改定＆増版しないのでしょうか？現状のもの、前は役場HPでデータがみられるとのことでしたが、探してもわかりません。 もし今も掲載されていればそれをお伝えするのでも大丈夫です。教えていただくと助かります。 【提案】 「観光客数」を増やすことが目的のプロモーション(キレイな風景写真などの発信)ではなく、観光地域づくりの活動や仕組みそのものを伝えていくプロモーションが、町民に実感してもらうために必要だと思われる。 また、町民が観光プログラムなどに参加する機会を増やすための施策を観光協会や協議会が主体となって、観光事業者と連携して進めていく。

	[5-1-5] 広域連携の強化と観光インフラ整備の推進	産業振興課	・3町広域観光協議会での屈斜路カルデラトレイル事業の実施。 ・阿寒摩周国立公園広域観光協議会にて、阿寒摩周国立公園90周年記念式典を9月に開催。 ・北海道東トレイル地域連絡会にて、10月に北海道東トレイル開通記念式典を開催。屈斜路カルデラトレイルを含む「北海道東トレイル」開通した。 ・国立公園立地自治体協議会が令和6年度に立ち上げられ当町も加盟。	・老朽化により、町内観光施設の、修繕個所が毎年複数個所発生しており、多額の修繕費がかかっている。 ・トレイルルートに関する整備。	・津別峠展望施設へのwi-fi環境の整備。 ・阿寒摩周国立公園広域観光協議会にて物産展へ出店。	【評価】 観光インフラ(屈斜路カルデラトレイルや津別峠展望施設、チミケツブ湖キャンプ場など)を整備し続けていくための経費を、「地元の税金＝町民負担(利用しない町民も含む)」だけではなく「利用者＝受益者」に負担してもらう仕組み・ルール作りが必須である。 特に、観光利用者の目線で見た「地域」にまたがる資源(屈斜路湖やカルデラトレイル)については、周辺地域と連携した仕組み・ルール作りが必要となり、それぞれの地域にある観光協会だけの連携ではなく、事業者や現場との連携強化が不足しており強化が必要。 【評価】 北海道東トレイルルート開通が津別町にどのような影響をあたえるのか、全体のルートとしては一部ですが人の流れに変化はあるのか今後の展開に期待したいです。
--	------------------------------------	-------	--	--	---	--

5 観光・交流「世界に発信できるつべつ・地域魅力づくり」～地域資源の価値向上と交流がさらなる魅力につながる強みを活かした観光のまち～

施策 5－2 地域交流の推進「人と人、地域と地域 つながりから多彩な魅力と価値が生まれるまちづくり」

10年後の目指す姿 (Goal)	主な取り組み (Project)	担当部署	内部評価			外部評価
			挑戦したこと (Challenge) ※定量的な実績を記載する。	挑戦の中で困っていること (Problem)	次に挑戦すること (Next Challenge)	挑戦に対する評価、激励、支援、質問 (Assesment, Encourage Support, Question)
◎交流拠点等の整備(図書館、複合商業施設等)がなされ、人々の交流が活発に行われています。 ◎南アルプス市、船橋市、台湾二水郷などの姉妹都市や、スポーツ合宿のつながりが継続発展し、全町民が親しみを持てる交流が行われています。 ◎スポーツや青年活動等、町内のそれぞれの人にあったさまざまな形で交流できる機会づくりが行われています。 ◎人口減少に伴い、人不足から各団体の活動を廃止・縮小するのではなく、既存の価値観にとらわれず現状に合った新たな活動が行われています。 ◎定住自立圏構想を活用した取組が積極的に行われています。	[5-2-1] 多世代交流や異業種間・職場間交流促進事業	住民企画課	・大通棟および幸町棟にて各種イベントが開催され、交流拠点の一つとなっている。 →大通棟イベント実施12回 →幸町棟イベント実施3回	・イベントによっては参加人数が少ないものもある。	・イベント開催のPRについて町もサポートする。	【評価】 情報は発信されていると思いますが、いつにどのイベントがあるのか分かりません。 【質問】 やり方次第では参加者も増えるのか？
		総務課 (姉妹都市)	・南アルプス市と祭事にて物産販売を相互で実施した。 ・台湾二水郷から友好都市提携10周年を記念し訪問団が来町した。	今後、交通費等の経費の増大が懸念される。	相互訪問を継続し、交流を深めていく。	【提案】 予算的に難しいのであれば今後、DX交流も計画しては？
	[5-2-2] 姉妹都市やスポーツ合宿の来町者と町民との交流事業	生涯学習課 (スポーツ合宿)	・道外チームの受入も再開し、徐々に活気を取り戻してきた。常連チームに留まらず新規チーム、スポーツも広がるよう誘致を進めたい。 →サッカー2団体、グレステンスキー8団体、ラグビー3団体、トランポリン1団体、野球3団体、バスケットボール1団体 延べ人数388名	・宿泊施設の確保 ・グラウンド等体育施設の整備 ・近隣市町との連携(練習試合相手など)	・新規チームやスポーツの開拓	
		住民企画課	・北見地域定住自立圏形成協定を構成する1市4町において、令和7年度からのパートナーシップ・ファミリーシップ宣誓制度の連携に向け、各種手続きに関する整備をした。	・部署を横断した連携が難しい	・他分野においても、連携の可能性を模索していく。	【質問】 すでに、津別でも問合せなどありますか？ パートナーシップ・ファミリーシップ宣誓制度とは、ちょっと違いますが、夫婦別性希望の方から、津別での対応について相談を受けたことがあります。そういうケースもありますか？ 【質問】 定住自立圏構想とはどのように進めるものなのか、どのような未来になっているのか、よくわかりません。

6 行財政「持続可能な行政経営のまちづくり」～次世代に受け継ぐ健全な行政経営に取り組むまち～

施策 6-1 協働の推進「民間と行政が連携した行政運営とまちづくりの推進」

10年後の目指す姿 (Goal)	主な取り組み (Project)	担当 部署	内部評価			外部評価
			挑戦したこと (Challenge) ※定量的な実績を記載する。	挑戦の中で困っていること (Problem)	次に挑戦すること (Next Challenge)	挑戦に対する評価、激励、支援、質問 (Assesment, Encourage Support, Question)
●実施主体が中心となり行政は支援するスタイルができています。 ●自治会や町民全般もより高齢化するので、民間の活動に頼った行政運営も実施されています。 ●異業種、異企業、異集団が広範囲につながり連携して町の発展に貢献しています ●行政、各企業・団体の若い世代が集まり、意見交換できる環境が整っています。 ●働き方改革推進協議会などで行政、民間が課題共有をしています。 ●行政課題、企業課題、諸課題を官民で共有し協働・連携で解決することで「まち育て」をしています。 ●自民の間で人事交流、職員相互派遣が実施されています。 ●民間企業等による高齢者の見守りなどが小まめに行われています。 ●SDGs(持続可能な開発目標)が定着しています。	[6-1-1] 官民間での人事交流の実施(人材育成と連携基盤の形成)	総務課	北海道や広域連合との人事交流は行ったが、官民間での人事交流には至っていない。	限られた職員数のため、民間との人事交流には至っていない。	官民連携による事業の推進、展開をしていく事により、人事交流についても検討していく。	
	[6-1-2] 自治会活動、行政活動などや協働事業の時代に即した在り方の研究検討	住民企画課	・自治会活動、行政活動や協働事業の在り方などを研究・検討するための意見交換などの活動を行うことができていないが、他市町村の状況、事例などの情報収集を行っている。	・高齢化により担い手不足が顕在化してきている。	・自治会活動、官民一体の協働事業を研究・検討するための機会の場を設けるなどの支援を行っている。	【評価】 とても重要だと思います。どうしていくべきか？特に郊外エリアでは喫緊の課題だと思います。 【提案】 自治会活動を維持するためにも自治会の班の再編が必要ではないか。高齢者には任せられず一部の人への負担が大きい。 【提案・要望】 自治会のあり方を考える (自治会活動に参加しにくいし、その必要性) 【評価】 自治会は商工券の予算どり等して頂いてるので、助かっています。
	[6-1-3] 関係人口の増加、移住促進事業(新たなプレーヤー(まちづくり活動人口)の増加)の強化	住民企画課	・道東エリアリノベーションプロジェクトのパイロット事業として立ち上げた起業支援型コワーキングスペース、地域融合型ゲストハウスやまちなか再生事業のひとつとして整備された、大通地区コミュニティ施設において、多世代交流、異業種交流が図られた。 →地域融合型ゲストハウス 延べ宿泊者数553名、多世代・異業種交流イベント48回(令和6年度) →大通地区コミュニティ施設 施設利用者数161,356人、多世代・異業種交流イベント11回(令和6年度)	・大通地区コミュニティ施設の整備に伴い誰でもイベントの開催が行えるようになったものの、開催イベントが公的イベントに偏っている。	・公的イベントのみならず、多くのイベントが開催されるよう施設利用の周知等を行い、交流の促進を図っていく。	【評価】 災転祭等好評なイベントが行われ、今までの津別町とは違う風を感じました。素晴らしいと思います。 【評価】 良いと思う 【評価】 空き家のほうで、コメントしましたが、空き家のリフォーム費用の助成、支援があればより良いと思います。

6 行財政「持続可能な行政経営のまちづくり」～次世代に受け継ぐ健全な行政経営に取り組むまち～

施策 6-2 行財政「効率的・効果的な行政運営と安定的な財政基盤の確立」

10年後の目指す姿 (Goal)	主な取り組み (Project)	担当部署	内部評価 挑戦したこと (Challenge) ※定量的な実績を記載する。	挑戦の中で困っていること (Problem)	次に挑戦すること (Next Challenge)	外部評価 挑戦に対する評価、激励、支援、質問 (Assesment, Encourage Support, Question)
◦AI(人口知能)、OCR(光学式文字読取装置)、RPA(ロボットによる業務自動化)を活用した事務の効率化が進んでペーパーレス化が定着しています。 ◦柔軟に人を動かせる組織体制が確立されています。(労働力の機動的配分)	[6-2-1] ICT(情報通信技術)機器・技術の積極的な導入による業務効率化	総務課	自治体情報システムの共通化・標準化について対応を進めており、令和7年度にシステムの更新を予定している。業務用ネットワークの無線化と、職員の業務端末を持ち運びが可能なノートPC型にすることで、議会や会議等のペーパーレス化を全庁的に導入試行した。	DX化過渡期で、オンライン申請等のデジタル化が進み、紙から電子データへの転換が進む中、全行程の電子には至っておらず、デジタル化の恩恵(自動化、検索性、省スペース)を受けられず、紙と電子データの変換作業、確認作業に労力を取られている。	電子文書管理、電子決裁システムの導入に向けて、検討を行う。	【要望】 印鑑レスや印紙代の削減、文書管理、移動手間などの効率化を図るために、北海道庁が推進しているように契約書類などは電子契約に移行できないでしょうか。 【質問・提案】 コンビニでの証明書の自動交付は津別町は対応していますか。窓口の業務効率化、行政サービスの向上に繋がるかと思います。
◦電子化等により文書管理の徹底が済んでいます。(集中的に移行作業を実施) ◦人口減少や予算規模が縮小しても持続可能な行政運営体制が確立されています。 ◦ICT(情報通信技術)の有効活用、文書のデータベース化の徹底が済んでいます。 ◦行政運営ノウハウ集、業務マニュアル(手順書)の完備による行政運営が効率化しています。 ◦行政運営での迅速な意思決定と適時情報共有化ができています。 ◦ICT(情報通信技術)等の活用により事務作業が効率化・自動化されています。 ◦柔軟に職員の配置を動かせる仕組みができています。 ◦北見地域定住自立圏が締結され連携が進んでいます。	[6-2-2] 働き方改革を含めた行政組織改革・運営	総務課	組織内での情報共有を図るため、ビジネスチャットツールを導入した。これにより、出張時や外勤時にも迅速に情報共有、情報伝達を行うことが可能となった。 オンライン申請フォームの導入範囲の拡大を行った。各種アンケート調査、イベント等の参加申し込み、施設管理における日報提出等、組織横断的に導入拡大が図られた。	働き方改革の取り組みを導入する際、これまでのやり方から新しいやり方へ移行する作業が必要となり、全庁的に業務多忙の状況であることから移行作業の時間を確保することが難しい。	担当部署のシステム改善要望を取りまとめて、改善手法について検討を行う。 生成AIを用いた業務の効率化について検討を行う。	【要望】 各種の申請や報告などのデジタル化・合理化を推進して欲しい。 【質問・評価】 部署ごとの残業時間などは公表されているのでしょうか。毎日大変とは思いますが、人材確保の観点からも労働環境改善は早急に進めるべきかと思います。

6 行財政「持続可能な行政経営のまちづくり」～次世代に受け継ぐ健全な行政経営に取り組むまち～

施策 6-3 情報発信の強化「情報発信力の強化と戦略的シティプロモーション施策の推進」

10年後の目指す姿 (Goal)	主な取り組み (Project)	担当部 署	内部評価			外部評価
			挑戦したこと (Challenge) ※定量的な実績を記載する。	挑戦の中で困っていること (Problem)	次に挑戦すること (Next Challenge)	挑戦に対する評価、激励、支援、質問 (Assesment, Encourage Support, Question)
*SNS等を活用した次世代型の情報発信(双方向即時連携)が整備されています。 *プロフェッショナル的な統一性のある発信によるプロモーション展開が行われています。 *子育て情報が整理されているプラットフォームが整備されています。 *ブランドメッセージの確立によるシティプロモーションが行われています。 *必要な人が必要なときに必要な情報を受け取れる仕組みが整っています。 *デジタルサイネージが町内に数多く設置されています。	[6-3-1] ICT(情報通信技術)を活用したコミュニケーションネットワーク整備(次世代ネットワーク)	総務課	・ささえネット@つべつのLINE版で、町のお知らせ等の情報配信を実施した。(4月22日時点LINE登録者数587名)	・登録者に限定した情報配信で、不特定多数に対する情報発信手段がない。	・ささえネットを常時周知して、登録者数を増やし、素早い情報発信・伝達をする。	【評価】 LINEは結構みれています。良い情報発信だと思います。 つべびいなども良いと思いますが、子育てや福祉も別LINEにして各部署同じLINEのプラットフォームで統一して情報発信すると受け取る側もわかりやすいかもしれないと思いました。 【提案】 デジタルサイネージで特集を組んで放送してみてもどうでしょうか。実施済みであれば申し訳ありません。 【評価】 マチイロの存在に気付いてなかったのでアプリ入れようと思います。
		住民企画課	・広報紙などで定期的にアプリ「マチイロ」を周知し、より多くの住民への情報発信の強化を行った。 ・総務省が行う「公的機関公式ホームページのJIS規格対応状況調査」にて全2,441ページで問題なくウェブアクセシビリティを保っていることを確認した。 →令和5年度マチイロ登録者289人 →令和6年度マチイロ登録者310人	・広報つべつにてアプリの周知を行っているが、定着するまでに時間がかかると思われる。	・SNS等の活用などの情報配信ツールの活用を増やし、ネットワークを利用した情報発信を強化し、津別の情報をより素早く伝える。	
	[6-3-2] プロモーション媒体イノベーション事業及び広報人材育成事業	住民企画課	・広報紙編集ソフトでの広報紙作成を行い、よりわかりやすい、見やすい紙面の作成を行った。また、新しいカメラを購入し、よりきれいな写真で情報を伝えることができた。 →住民満足度調査「行政の情報発信等」の「満足」、「おおむね満足」の割合71.5%(令和5年度)	・町の情報源となる広報つべつのイノベーションができていない。	・全町民が見やすい広報つべつの作成を行う。	

全体を通して

外部評価

挑戦に対する評価、激励、支援、質問

(Assesment, Encourage Support, Question)

ご尽力有り難うございます。

わからない分野は省きましたが、良い町になっていると思いますし、より良い町になればもっと良いですね！

委員会の開催時間が、業務の時間と重なるため出席が難しく、欠席となる場合が多く申し訳ない。

・熱中症対策の義務化、時間外労働の上限規制、アルコールチェックの義務化など、企業を取り巻く雇用環境は年々厳しくなっており、環境整備に係る負担が非常に大きいことから津別町独自の補助金事業を打ち出してほしい。

・役場の新入社員や町内の企業で新しく雇用された新入社員に対して、企業単位ではなく合同の新人研修会(3日程度)を開催してほしい。業界を横断した横の繋がりを作るだけでなく、早期離職の防止と定着を促進し、津別町に定住を図るうえでも最初が重要だと感じている。

・観光協会理事の高齢化やマンパワー不足など、観光協会が夏祭りなどの各種イベントを主催し継続することは限界を迎えている。置戸町のように、町のお祭りは町で主催するほうがよいのではないか。(役場の若手職員が我が町のお祭りに誇りを持ち、いきいきと運営している光景が印象的であった)

回答はここまでとしますが、設問の内容に重なりがあるものが多いと思われるので、各項目を大括りにするか、その大枠の特に重要な項目を何点かピックアップする等工夫して欲しいと思います。

どこに書けばいいかわからなかったもので、こちらに記載します。

ついに人口が4000人を切ってしまいました人口流出が止められないのは理解しています。しかし、ここ10数年の間の現象で特にお子さんが中学校3年生卒業のタイミングで、家族と北見や近隣の地域に引っ越してしまう(隣町に家建てる)家族が多いという事情が何年も前から続いています。人口流出が加速度的に増えていっているのではないのでしょうか。

どうにかして家はそのまま津別町にいてもらうような施策を本気で考えてもらいたいです。

もちろん津別高校の存続は重要ですが、家族ごと人口が流出してしまう現状も考えなくてはいけないと心底感じています。

いかに津別町にいたほうが良いという魅力を、住民の人に理解してもらえるような施策を本当に考えて欲しい。

町外で家を建てられてしまうと、その子供たちの実家は津別町ではなくなります。かなり重たい問題だと思いますので、本気で考えて欲しいです。